

鹿児島高専だより

第 62 号

平成22年 3 月

〈特集〉 国際交流



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目次

校長室から

高専卒業後の進路…………… 1

特集「British Columbia Institute of Technology (BCIT) との交流について

BCITでの特別実習に参加して…………… 3

教務だより

世界を支える技術者を目指して…………… 4

平成21年度 海外語学研修報告…………… 5

数学および英語の科目別クラス編成の実施について…………… 6

新型インフルエンザへの対応について… 7

工場見学旅行について…………… 8

工場見学旅行…………… 8

オーストラリアへの工場見学旅行…………… 9

工場見学旅行……………11

工場見学の感想……………12

学生だより

学生表彰について……………13

高専ロボコン2009を振り返って……………16

学生会長を務めて……………17

高専祭を終えて……………17

文化祭を終えて……………18

志学寮だより

志学寮・雑感Ⅱ……………19

専攻科だより

専攻科で養成する技術者像とカリキュラム…20

専攻科説明会……………21

機械・電子システム工学専攻修了生に贈る言葉…23

贈る言葉……………23

贈る言葉……………24

学生何でも相談室だより

障害（病気）と偏見……………25

教職員研究活動

文学と工学の交錯……………26

現代正義論論争に対するスコットランド

啓蒙思想からの提言……………26

技術室職員の研究活動紹介……………28

退職教員だより

気骨ある卒業生たち 後編……………29

卒業

贈る言葉……………33

卒業するにあたって……………33

卒業、そして出発……………34

高専生活を振り返って……………34

卒業にあたって……………35

僕たち私たちは卒業します!! ……35

専攻科修了にあたって……………36

専攻科を修了するに当たり……………36

専攻科を修了するにあたって……………37

卒業研究テーマ一覧表……………38

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の

就職進学一覧……………44

教職員の動向

感謝とお礼……………47

鹿児島高専を退職するにあたって……………47

退職のご挨拶……………48

引地准教授が九州工学教育協会賞を受賞…49

河野教授が教員顕彰選考委員会委員

特別賞を受賞……………49

平成20年度永年勤続表彰（退職時）

について……………50

平成21年度永年勤続表彰について……………50

留学生だより

平成21年度留学生活動報告(2)……………51

同窓生だより

先輩から… ……53

在校生の皆さんへ……………53

近況報告……………54

社会人になって……………54

高専生から高専教員になって……………55

私の学生生活……………55

就職して大切だと思うこと……………56

後援会だより

鹿児島高専に感謝！……………57

熱いキャンパスの応援団 Vol. 2 ……58

5年間を振り返って……………58

高専との関わりを振り返って……………59

5年間の理事を振り返って……………59

行事予定表……………60

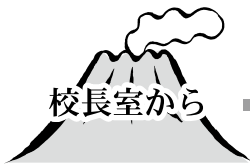
【表紙の説明】

シンガポールでの第1回テマセク・ポリテクニク学生交流会の1コマです。

写真右：テマセク・ポリテクニク学生達と本校学生達の自然体験学習（クランジにて）

写真左：テマセク・ポリテクニクの校舎外観





高専卒業後の進路

校 長 赤坂 裕

鹿児島高専が設立されたのは1963年ですから、設立後47年が経過したことになります。本校に限らず、高専は当初「中堅技術者」を養成する教育機関として発足しました。「中堅技術者」とは指導的立場にある技術者を補佐する技術者という意味です。しかし今はそうではありません。「高等専門学校教育の充実について」という中教審答申（平成20年12月）に記されているように、高専は「幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者」を養成する高等教育機関です。発足以来、高専卒業者は社会で大いに活躍してきました。先輩達が活躍し高専の存在意義を高めたことが、高専卒業者の評価を「中堅技術者」から「実践的・創造的技術者」に押し上げたのです。

高専の本科は5年間で、卒業後の進路は就職と進学に分かれます。本校の近年のデータでは、就職者と進学者の比率は、就職がやや多く、6対4程度です。この比率は高専によって異なり、進学者が70%を超える高専もあります。就職状況は極めて良好で、本校では経済が低迷した平成21年度でも求人数が就職希望者の約15倍であり、就職を希望する全学生の就職が決まっています。

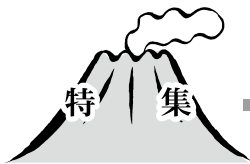
当初、高専卒業後に進学する学生はあまり多くはありませんでした。これは進学を希望しても受け入れる大学が少なかったことによりますが、1976年に高専卒業者の受け入れを前提とした大学として豊橋技術科学大学と長

岡技術科学大学が開学したことにより、3年次編入学生が増加しました。両技科大では学部3年生の80%程度を高専からの編入学生に割り当てています。高専卒業者にとって技科大への3年次編入学は、技科大が高専本科卒業者の受け入れを前提とし高専教育との接続性を考慮した教育を行っている点で有利です。技科大では編入後から博士前期課程（修士課程）修了までの4年間の一貫教育を行っているため、技科大への編入学生は殆どが大学院に進学しています。

一方、高専も専攻科を設置し、本科5年を卒業した後、2年間の専攻科を修了して学位授与機構の試験に合格すれば、大学卒と同じ学士の資格を取得できる制度を整備してきました。本校でも平成12年度から3専攻より構成される専攻科を発足させました。本校専攻科の「環境創造工学」プログラムは日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けており、この教育プログラムを修了すると国際的に通用する国家資格である技術士の第1次試験が免除される利点があります。

本校での専攻科の進学者はこれまで30名前後でしたが、専攻科への受け入れを増やす方針です。受け入れを増やす方針としているのは、専攻科進学は大学編入学に比べて授業料が安いこと、本科から一貫した指導のもとで実践的・創造的な教育研究をより高度なレベルで行うことができることに加え、トップクラスの国立大学の大学院も高専専攻科修了生を積極的に受け入れてきており多彩な大学院の選択が可能であること等、専攻科進学の魅力が増しているからです。

高専卒業者の役割は「幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者」です。これは本校の学習・教育目標にも通じるものです。上述のように、高専卒業後は多様なキャリア・パスが開けています。学生諸君はそのことを自覚し、本科卒業後に就職するにしても進学するにしても、本科でしっかりと学び、それぞれが自分の将来像を描きながら主体的に進路を決めてもらいたいものです。



British Columbia Institute of Technology (BCIT) との交流について

一般教科文系（国際交流委員） 松田 忠大

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア（British Columbia）州バンクーバー（Vancouver）市に隣接するバーナビー（Burnaby）市にあるBritish Columbia Institute of Technologyとの交流が始まったのは、2008年度からのことである。この交流については、これまでこの高専だよりにおいても、何度か報告をしてきたが、今回は、本校の教育GPとして推進されている事業である「技術士会と連携した新たな実践的技術者教育」の一環として、昨年8月末に開催された「国際シンポジウム」および昨年9月に実施した専攻科学生の派遣について、報告をしたいと思う。

(1) 教育GP「国際シンポジウム」

本校の推進する「技術士会と連携した新たな実践的技術者教育」は、文部科学省の補助金事業として、昨年度より実施されている事業である。この取組は、鹿児島県技術士会の協力を得て、同会に所属する技術士を本校の教育に派遣していただき、学生に対する実務的な素養の涵養を図ろうとするものである。この事業の一環として、今年度は、夏休み中の8月28日（金）に、カナダ・中国（南京航空航天大学の左教穂教授にお越しいただいた）から、大学にて教鞭をとられている先生方をお招きし、国際的な実践的技術者教育の現状についてのご報告を行っていただいたうえで、日本の技術者教育との現状との比較に基づき、今後の実践的技術者教育の在り方、特に、どのような手法で、どのような技術者を養成すべきかについて、ディスカッションを行った。

カナダからは、BCITの環境建設学部のBarbara Dabrowski副学部長およびRishi Gupta先生にお越しいただき、基調講演として、Dabrowski先生に「カナダにおける実践的技術者教育の現状と課題」とのテーマでご講演をいただいた。カナダにおいても少子化に加え、技術者を目指す若者が減少傾向にあり、優秀な技術者の育成に大きな支障となっていることが報告され、また、実践的な能力を学生に身につけさせるためには、教員の実務経験を維持・向上させる必要があるとの考えが示されたことが印象に残った。基調講演につづき、「国際的な視点から創造性豊かな開発型教育者教育の在り方を考える」とのテーマにて、パネルディスカッションを行った。Dabrowski先生およびGupta先生に加わっていただき、今後の技術者教育の在り方について様々な意見を出

していただいた。なお、このシンポジウムの詳細な内容については、教育GPの最終事業報告書において報告したい。

(2) BCITへの学生派遣

今年度は専攻科土木工学専攻1年の梶原誠君を9月4日（金）から10月4日（日）の1か月間、BCITの環境建設学部へ派遣した。8月に本校にて開催された国際シンポジウムにご参加いただいたGupta先生による履修科目のコーディネートに基づき、梶原君は、専門分野である都市計画に関する科目をはじめ、コンクリート、環境などに関する科目（6科目）を履修するとともに、英語力向上をはかるために、英語のコミュニケーションに関する科目を履修した。1か月間のカナダ滞在期間中は、すべてホームステイを行い、日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上に努め、さらには、BCITの学生と一緒にパーティに参加するなど、積極的にコミュニケーションをとるための努力をしたとの報告を受けている。なお、BCITおよびカナダでの1か月間の生活について、梶原君本人にも寄稿してもらったので、詳細についてはそちらをご参照いただきたい。

(3) BCITとの交流の今後の展開

BCITへの学生の派遣は、今年度で2回目を迎えた。さらに、今年度はBCITの先生方を招聘しての国際シンポジウムも開催され、本校との交流の幅も多少の広がりを見せてきた。このように両校の交流が拡大しつつあることの背景には、BCIT環境建設学部副学部長のDabrowski先生の国際交流についての積極的なお考えと、それに基づいてBCIT学内での本校学生受け入れ等に関するご尽力によるものであると深く感謝している。今後は、学生の交流に加えて、教育・研究面での教員間の交流も促進させたいと考えていたところ、8月の国際シンポジウムにお越しいただいた折に、思いもかけず、Dabrowski先生から、本校との間で国際交流協定を締結したいとのご提案をいただいた。BCITとの交流を確固たるものにしたいと考えていた筆者にとってはたいへん嬉しいお申し出であった。喜んでお受けすることにし、国際交流委員会において報告し、現在、国際交流委員長のあべ松教授および国際交流委員の坂元准教授とともに交流協定書の原案を作成している段階である。2月初旬に、BCITへ出向き、最終調整を図り、来年4月には調印を行う予定である。本協定には、学生の交換留学を可能にすること、および、教員の教育および研究に関する交流を促進することが主な柱として盛り込まれる予定である。この協定を締結することで、本校の学生は、BCITにおいて1学期間あるいはそれ未満の短期間、BCITに授業料を支払う必要なく、BCITで授業を受講することができ、かつ、履修科目の試験に合格すれば単位が付与されることになる。今

後は、この協定に基づいて、1か月程度の短期の派遣だけではなく、1学期間にわたってBCITの授業を受けることにチャレンジする学生が出てくることを、また、研究面に関しては、BCIT教員と本校教員との共同研究が行われ、国際的連携による研究成果が生まれることを期待したい。

BCITでの特別実習に参加して

土木工学専攻1年 梶原 誠

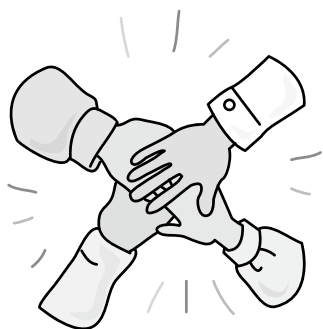
今年度の夏季休業期間に特別実習として、カナダにあるBCITという工科大学の講義に1ヶ月間参加させていただきました。今回はその体験を、ほんの少しだけですが紹介させていただきます。

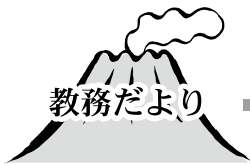
先生方からの「行ってこい」という命令のもと1ヶ月間の武者修行は始まりました。関西までしか行ったことのない私が、東京を通り越していきなり海外へいくことになったのです。BCITは、パートタイムの学生を含めると約4万人の学生が在籍しており、冬季オリンピックの開催地であるバンクーバー市に隣接したバーナビー市にあります。本校がある霧島市よりも、公共交通機関が発達しておりとても住みやすい街なのですが、21年間単人に住んでいる私にとっては、少々肌寒かったです。

学校では、6科目、週当たり19時間、カナダの学生とともに講義を受けました。正直に言うと、最初は全く先生方の英語を聞き取れず、自分の英語能力の低さに落胆させられました。それでも生活していく中で、次第にListeningは向上しているのを実感することが出来ました。しかし、Speakingは全くダメでした。このことが原因で、現地の人達と話すことにためらってしまったことに今でも少し後悔しています。また、自分の積極性が足りなかったことも原因です。上手く英語で表現できなくても、上手に発音出来なくても、相手の方はしっかりと聞いて理解しようとしてくれます。英語に自信がなくても、知っている単語・表現だけでもコミュニケーションをとることは十分に可能なので、まずは口に出して喋ることが重要ではないかと思います。自分の英語が相手に伝わった時の喜びはとても清々しいものです。みなさんも海外に行く機会があれば、自分から積極的にコミュニケーションをとってみてください。

本実習での反省点を踏まえ、今後の学生生活ではもっと積極的に行動していきたいと考えています。

最後に、とても充実した1ヶ月間を過ごすことが出来ましたが、海外に行く機会を与えてくださった松田先生、内田先生、吉田先輩そして両親にこの場を借りて深く感謝申し上げます。





世界を支える技術者を目指して

教務主事 植村眞一郎

本校の学習教育目標の一つに「グローバルに活躍する技術者」の育成があり、また国際交流の推進については本校の中期目標にも掲げられている項目です。そのような中、最近では、就職した卒業生で早い人は入社後1年以内に海外に飛んで短期間ながら仕事をしている人もいますなど、今や海外で仕事をするのは珍しくありませんが、一方で海外に行きたくない、海外で働きたくないという学生も思いのほか居ます。



5年ほど前4年次担任を受持ったとき、工場見学旅行先を決めるに当たって、クラスの学生に海外の経験をさせたいと思い、オーストラリアにしたいと提案しました。オーストラリアを選んだ理由は、英語圏だということと時差がないので楽だというものでした。そのための学生に行ったアンケートの結果を見て大変驚きました。予想に反して、国内が良いという学生が多かったのです。その中には、親へ経済的に負担を掛けたくないという理由が多くあってとても感心させられましたが、その他の大半は東京へ行きたいというものだったので、彼らの意識の現実に驚いたのです。そこで保護者にも同じようなアンケートをとったところ、経済的な理由で国内という数名の保護者を除いて、殆どの保護者は子供に早いうちに海外に行かせて、異文化に触れ多くの経験をさせたいと願っていることがわかりました。学生に保護者へのアンケート結果を話し、再び学生に同じアンケートを取ったところ、今度は保護者とほぼ同じ結果になりました。それで、保護者全員の同意書を頂いてシドニーを中心とした工場見学旅行を実施しました。

旅行が終わったあと学生全員に感想文を書いてももらいましたが、学生の意識は旅行前の最初のアンケート結果とは大きく異なる内容のもので、殆どの学生が海外に行ったことで色んなことを学び、気づいたことが書かれていました。彼らにとって、自分の英語が通じない、思ったことが言えないことなどが一番のショックだったようです。私は、そのようなことを自覚できたこの見学旅行は、確実に学生の英語に対するモチベーションアップに貢献したものであったと実感し、担任としてオーストラリアへ行って良かったとつくづく思っています。

その後、5年になって全学科の学生がTOEICの試験を受けましたが、JABEE特命担当の先生から「先生のクラスはTOEICの平均点が他のクラスに比べかなり高いのですが、何かされたのですか」と尋ねられたことがありま

す。TOEIC向けの特別なことはしていないのですが、推察するに海外へ行って英語のコミュニケーション力の必要性を感じた学生たちが、その後意識して英語に力を入れたのも一因ではないかと思っています。

学生もそうであったように、海外へ行くことで日本の習慣・文化との違いを実感します。私は、いろんなきっかけがあつて、これまでヨーロッパ諸国、シンガポール、アメリカ、オーストラリア、韓国などに行き、それぞれの国の文化の違い、また日本の良さや見習うべき点などを肌で感じ、あれこれ考えさせられました。また同時に、日本のことについて自分自身、実はよく知っていないと気づかされ、その後は意識して日本のこと、鹿児島のことをよく理解しようと努めるきっかけになりました。

私が今でも強烈に覚えていることがあります。20数年ほど前、アメリカに最初に降り立ったシアトルの空港でトイレに行ったとき、どのゴミ箱も手拭きのティッシュであふれかえっているのを見て、そのすごさと紙を浪費しているとしか思えない感覚に驚きました。日本ではまず見ない光景でしたし、また当時ゴミ処分が社会問題となっていた時期でもありました。しかし、テキサス上空を飛んでいる時、眼下に見える広大な砂漠のような何もない土地を見ると、彼らにとってゴミ処分問題は大きなことではないのではないかということがわかった気がしました。また、一方で車は歩行者にとっても優しいということでした。それは、横断歩道の端に立っていると必ず止まってくれて歩行者を先に渡らせてくれたのです。日本ではなんとなく車優先の感覚がどうしてもあり、場合によっては歩行者が優先なケースでもクラクションを鳴らされて、不愉快な思いをさせられることが時々ありますが、そのようなことは1回もありませんでした。海外へ行くことのようなことは枚挙にいとまがありません。

今や、海外へ行くことも、英語が話せることも特別なことではない時代です。また、以前は日本は経済大国として世界でもアジアでもそれなりの地位を築いていましたが、社会情勢が大きく様変わりした今、特にアジアでは経済発展の著しい中国をはじめ、他の国々とも共存共栄していかなければならない時代になっています。そのためには、お互いをより良く知り合うことが求められます。特に若いときに、国際感覚を養う意味で海外の人たちと交流を深めることは大変大きな意味があります。今年度から始まったシンガポールのテマセク・ポリテクニクの学生との交流は、同じアジア圏の若い人同士で共通理解を深め合う良いチャンスです。これ以外にもカナダでの語学研修などもあります。これらの国際交流の機会に積極的に参加しチャレンジして欲しいものです。

平成21年度 海外語学研修報告

教務主事補 椎 保幸

平成21年9月15日（火）～9月24日（木）に本科2年生を対象とした海外語学研修を実施いたしました。本研修は、低学年のなるべく早い時期に海外での生活や語学研修を体験することで異文化理解を深めるとともに、英語学習の重要性を理解し、今後の学習意欲を高めることを目的として実施されているものです。海外語学研修は今回で5回目となります。海外が初めてという学生がほとんどであるため、本研修の前に英語科の先生と外国人講師のご協力をいただき、事前研修としてカナダ文化および英会話の基礎的な学習を2日間にわたって実施しました。昨年度までは20名以上の学生が参加していたのですが、今回は4月頃より流行した新型インフルエンザの影響で希望者が少なく、11名（うち2名が女子学生）の学生が参加いたしました。研修に同行した教員は、一般教育科文系講師である田中智樹先生と著者の2名です。来年度はインフルエンザの対策も進み、多くの学生が参加できる状況になることを願っております。

研修先は例年と同じカナダ・バンクーバーにある、Notre Dame Regional Secondary School という日本の高等学校に相当する学校であります。研修の具体的な内

容は、現地のホストファミリー宅にホームステイをしながら、研修先に通い授業を受けるというものです。当然ながら授業および日常会話はすべて英語であり、学生は非常に過酷な状況におかれます。ただし、学校ではチューター役として学生1人に対し現地の生徒1名が世話役（Buddy）としてつき、終日様々な手助けをしてくれます。始めは皆緊張していましたが、すぐに学校の雰囲気にも慣れ、二日もすれば冗談を言い合うほどコミュニケーションがうまく取れるようになっていました。学校での一日のスケジュールは、表1に示すように4コマの授業から成っており、授業間の休憩も長く設定されています。学生はBuddyと同じ授業を受け、休み時間になるとCommunication roomにて他の生徒たちと会話を楽しんだり、食事をしたりと思い思いに過ごしていました（図1）。中にはフットボールを一緒に楽しむ学生もいるなど（図2）、とても良い雰囲気のうちに研修を終えることができました。

研修後に学生達の声を聞くと、「自分の英語が通じたので自身が持てた」、「外国の文化をもっと知りたくなった」、「期間が短かった」など本研修に参加して良かったと言ってくれました。今後もこの研修が継続され、より多くの学生が関心を持ってくれることを期待します。

表1 平日の授業時間割

8:25	Warning bell	8:30～9:40	1 Period
9:45～10:00	Homeroom	10:05～11:15	2 Period
11:15～11:30	Break	11:35～12:45	3 Period
12:45～1:20	Lunch	1:25～2:35	4 Period



図1 休み時間の様子



図2 一緒にスポーツを楽しむ様子



図3 記念写真

数学および英語の科目別 クラス編成の実施について

教務主事 植村眞一郎
検討WG長 山内 正仁

今年度の教務関係における方針の一つに、本校における基礎学力の定着、ならびにクラスに一人しかいない女子学生への対策として、数学および英語の科目別クラス編成の実施に向けた検討があげられた。そこで、教務委員会の下にその検討のためのワーキンググループ（以下WG）を立ち上げ、教務主事、WG長以下、一般教育科教務委員の鞍掛および嶋根両委員、英語科代表の坂元および数学科代表の白坂両教員のメンバーで協議を行ってきた。

このような科目別クラス編成を実施している高専が全国でいくつかある。その中で鶴岡高専が数学、広島商船高専が数学と英語の科目別クラス編成を実施しており、協議に先立ち、その効果や問題点などについて聞き取り調査を行うため両高専を訪問させて頂いた。鶴岡高専は山形県北部に位置し、機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、物質工学科の4学科を有し、一方の広島商船高専は、広島県中部に位置する瀬戸内海に浮かぶ大崎上島にあり、商船学科、電子制御工学科、流通情報工学科の3学科を有する高専である。両高専においてはそれぞれの学科の先生方から詳細にわたり丁寧に説明して頂いた。

これらの高専への訪問調査の結果、両高専とも習熟度別によるクラス編成を実施しており、その取組の中で成績の下位クラスを20人程度の少人数クラスにして教育を行っていることが、学力の底上げに効果があることがわかった。しかし、習熟度別を実施するにあたり、下位クラスの学生には授業形態（演習形式を勧められた）やクラスの実態に合わせた独自のワークシート・プリント作成など、授業にこれまでより以上の工夫が必要であることの説明も頂いた。

これらの調査結果を基にWGで検討を重ねた結果、数学と英語における科目別クラス編成について、以下のような両学科の意向を踏まえた実施計画案が教務委員会へ報告され、学内のコンセンサスを経て来年度から実施することが決定された。

■ 習熟度を考慮した科目別クラス編成における数学、および英語のクラス編成実施計画

1. 数 学

- (1) 対象学年：2年生
- (2) 科目：微積分学Ⅰ（前学期）、微積分学Ⅱ（後学期）
- (3) 時期：2010年度前学期から実施

- (4) クラス編成：45人×2クラス（成績上位）＋30人×4クラス（成績下位）今年度の数学基礎Ⅳ（後期）の素点で組分けを行う。男女比、学科比については配慮する。
- (5) 評価：共通問題で定期試験を行う。平常点については詳細未定。
- (6) 教員配置：常勤教員は下位クラスを受け持ち、非常勤は上位クラスを受け持つことにする。

2. 英 語

- (1) 対象学年：1年生（英文法Ⅰ）、2年生（英文法Ⅱ）
- (2) 科目：2010年度後学期から英文法Ⅰを開始する。以降、2011年度前学期に英文法Ⅱ、2011年度後学期に英文法Ⅰと英文法Ⅱを併行で実施する。英文法は英語力の差も出やすく、理解度に応じて適切な対応が必要なため、混合クラス編成は学生の学力向上への良い影響が期待できる。
- (3) 時期：2010年度後学期1年生の英文法Ⅰから実施
- (4) クラス編成：50人×2クラス（成績上位）＋25人×4クラス（成績下位）（英文法Ⅰ・Ⅱどちらも常勤5名、非常勤1名で6クラス編成）
- (5) 評価：英文法Ⅰ（後学期）、英文法Ⅱ（翌年前学期）を対象にする場合、前の期の定期試験の素点で全体を半分に分け、成績の上位半分を大人数2クラス、下位を少人数4クラスに振り分ける。
- (6) 教員配置：常勤教員は下位クラスを受け持ち、非常勤は上位クラスを受け持つことにする。

■ 科目別クラス編成を実施するに当たっての課題

鶴岡高専および広島商船高専への訪問調査から、科目別クラス編成を実施するに当たって以下のようなことが明らかになった。

1. 科目別クラス編成は、数学、英語の担当教員にとっては、教材研究や評価などにこれまで以上に多くの時間を費やすことになる。しかし同時に、それぞれの学科においては、授業の打ち合わせなど緊密な連携によるコミュニケーションの機会が増えることで教員相互の共通理解が深まったという利点も挙げられた。
2. 定期試験の公平性、教員間の教授方法の差による学生への影響を極力無くすために、定期試験については、各クラス（習熟度別クラス）を担当していない教員が作成するのが望ましい。また、クラス編成にあたっては、1年を通して、同じ先生になるべくならないように配慮する必要がある。

これまで科目別クラス編成の実施計画と課題について述べたが、今後この新しい教育システムがPDCAサイクルにのっとってさらに効果的な方法へと改善され、基礎学力向上の定着および女子学生への配慮に寄与していくものと思われる。

新型インフルエンザへの 対応について

新型インフルエンザ対策本部

教務主事 植村眞一郎

2009年4月にメキシコに端を発しその後アメリカで感染が確認された新型インフルエンザは、その後爆発的ともいえるほど感染者が増加し、WHOが6月にフェーズ6（パンデミック）に引き上げたことは記憶に新しい。高専関係では早いところでは8月に学級閉鎖になった学校も伝えられたが、本校ではそれまで感染者は確認されなかった。

本校で最初に感染者が確認されたのは8月末、その後9月にもそれぞれ一人ずつ確認され始めたこともあり、新型インフルエンザによる学級閉鎖を想定した基準作りが急がれ、新型インフルエンザ対策本部を立ち上げ休業措置の対応策を決めた。当初の基準は、1クラスあたりの感染者数の割合が1割即ち4名以上になると学級閉鎖とし、学級閉鎖数が14クラス以上に達すると学校閉鎖とすることとした。一般的には学級閉鎖の次の段階は学年閉鎖の段階を経るが、本校では学年が建物等で区別されている学年配置構成になっていないため、学年閉鎖は実質的に意味がないと判断し、学年閉鎖の措置は執らないこととした。なお、本校は学生寮があるため、寮生の感染者数が寮生数の1割以上になったら直ちに学校閉鎖とした。

後期が始まって間もなくの10月6日から本校でも感染者が急激に増加して学級閉鎖が相次ぎ、後学期中間試験期間中も含め12月13日迄に8クラスに学級閉鎖の措置をとった。以下が学級閉鎖の状況である。

- (1) 電気電子工学科3年：10月9日～16日
- (2) 土木工学科2年：11月6日～9日
- (3) 土木工学科1年：11月9日～12日
- (4) 機械工学科1年：11月24日～27日
- (5) 電子制御工学科2年：11月28日～12月1日
- (6) 電気電子工学科1年：11月30日～12月3日
- (7) 電子制御工学科1年：11月30日～12月3日
- (8) 土木工学科3年：12月10日～13日

特に、11月下旬から12月にかけてインフルエンザ感染者が急激に増え学校閉鎖の状況も予想されたことから、休講に伴う補講予備日の確保を目的として12月24日、25日の2日間に前倒し授業の措置をとり、全教職員および学生の理解と協力を頂いて授業を行った。補講予備日は2月15日、16日にあてた。

その後、鹿児島県において従来の基準が変更されたことに伴い、12月16日付けでそれまでの学級閉鎖の基準について1クラスの感染者数を2割以上の学生即ち8名以

上にあらためた。さらに、12月25日付で、以下のような理由により学級閉鎖等の「休業措置」から、基本的に個別対応の「出席停止」の考え方にあらためた。

- (1)「新型インフルエンザ」の「新型」を削除した。理由は、今後、流行することが予測される「季節性インフルエンザA型」と「新型インフルエンザ」との区別が医療機関では不可能であり、薬も同じものであること。また、別に「季節性インフルエンザB型」もあり、これら全てに対応したものにする必要があること。
- (2)「休業措置の考え方」を「出席停止等の考え方」に変更した。理由は、今までどおり学級閉鎖等を行った場合、授業時間数の確保が困難となる可能性があるもので、原則として、個別の対応とすること。
- (3)ただし、クラスの半数近くが罹患する場合等も考えられるので下記「3. その他、留意事項」の(4)、(5)、(6)に従前の臨時休業についても記し、この場合の対応については、学級担任とインフルエンザ対策本部において協議すること。

以上に基づき、対策本部で決定した最終的な「インフルエンザ発症時の出席停止等の考え方」を示す。

1. インフルエンザ患者が発生した場合は、学校保健安全法第19条に基づき、当該学生を出席停止とし、その解除については、原則として医師の診断によるものとする。
 2. インフルエンザ患者が増加、又は増加の傾向が認められる場合は、インフルエンザ対策本部において、学校保健安全法第20条に基づき、クラス又は学校の臨時休業について検討し、その可否を決定するものとする。
 3. その他、留意事項
- (1)インフルエンザ患者とは、医師からインフルエンザ（疑いも含む。）と診断された者。
 - (2)クラス担任及びクラブ顧問は、インフルエンザ患者が発生した場合は直ちに学生課に届けること。
 - (3)インフルエンザ患者が寮生で離島出身者及び留学生のうち、帰省が困難な場合は宿舎等の利用について個別に検討する。
 - (4)臨時休業中も学生の健康状況の把握に努める。
 - (5)クラス又は学校の臨時休業となった後、臨時休業を解除した場合は、個別に出席停止で対応する。
 - (6)臨時休業を終了しても、なお、学校運営に支障をきたす程度に学生が登校できない場合は、臨時休業の延長を検討する。

冬休みが明けた現在、心配していた新型インフルエンザを発症した学生数はかなり少なくなったが、今後とも拡大予防に努めて行きたい。

工場見学旅行について

機械工学科 4 年 池野 昂平

今回、「高専だより」に工場見学について書くことになりました。4 年機械の池ポンです。まず、なぜこの人が書くのだろうと皆さん思われているので、その理由を説明しましょう。あれは、原稿の締切の 4 日前の材料力学の授業終了後、総務の提案で、「小田原先生の誕生日で決めよう」と言うことになり、案の定、先生の誕生日は 6 月 2 日で 2 番目の自分に決定しました。普通の人間は、ここで全てを投げ出すのに対し、自分は全てを受け入れ任務をまっとうすることにしました。

さて、本題に戻りますが、4 年機械の旅行先は、九州で、正直なんで九州なんだろうと思いつながら、バスガイドが割と美人だったので、テンションが上がりました。はっきりいって、工場見学に行ったのは、3 ヶ月前なので、内容はほとんど覚えていませんが、1 日目は、熊本の YAMAHA に行き、長崎の雲仙の旅館で温泉を楽しみました。2 日目は、長崎市内を自主研修し、三菱重工、YKK に行きました。三菱重工の大きな旋盤には、とてもおどろいたし、YKK の塗装工程も設備が整っており、いい体験ができました。そして、長崎から福岡に移動し、高級ホテルでみんなと熱い夜を過ごしました。

3 日目は、三菱化学、J R 西日本に行きました。三菱はプラントで工場の周辺を見学しただけでしたが、色々な研究所があり、とても興味をもてる場所でした。J R 西日本は生で新幹線の車両を見ることができたり、鹿児島高専の先輩のお話を聞けたりして、とても勉強になりました。4 日目からは自主研修だったので、福岡の街にくりだしてショッピングを楽しみました。初めて、天神に行きましたが、鹿児島と違い都会で、通りすぎる女の子もみんな可愛くてヤバかったです。素直に福岡に住みたくなりました。

こんな感じで、最初は乗り気ではなかった工場見学旅行も終わってみれば、楽しい思い出になりました。もうすぐ就職活動が始まるので、工場見学を通して体験したことを参考にしていきたいです。

最後に旅費を出してくださったお父さん、お母さんありがとうございます。

工場見学旅行

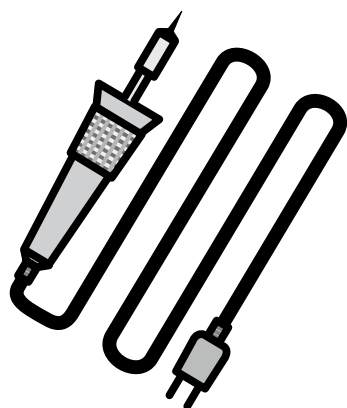
電気電子工学科 4 年 轟 修一

今年の電気電子科の工場見学旅行先は、関西でした。担任の樫根先生はというと、新型インフルエンザで鹿児島にお留守番…。一方、飛行機の中では、みんな大はしゃぎでした。代理の今村先生も大変そうでした。一時間かけて大阪に到着し、バスでタコ飯センターへと移動し昼食をとりました。バスガイドさんは、容姿端麗で元気な人でした!?!タコ飯は思っていたよりも美味でした。そして、最初の三菱電機（株）神戸製作所へ移動しました。ここでは、発電機やいろいろな種類の中央制御盤などが作られていました。中央制御盤の製作現場を見学しましたが、部品が多く、受注から発注まで約五年かかると聞いて驚きました。ホテルに着くと自由時間だったので街を散策したりしました。やはり鹿児島より栄えていました。何に使ったかは忘れたけどあつという間にお金がなくなりました…（笑）。二日目の午前には三菱重工業 神戸造船所、午後は阪急電鉄（株）正雀工場を見学しました。三菱重工業は、産業基盤という重要な役割を担うポジションに位置づけられ、新造船、潜水機器、宇宙機器などさまざまな分野で活躍している会社だそうです。実際に船の製造現場を見学しましたが、スケールの大きさに唖然としました。世界に誇れる会社だと思いました。午後からの阪急電鉄は、車両の点検、塗装風景を見学しました。従業員の人の眼差しはとても真剣でした。案内人の方が面白かったので楽しく見学することができました。夜は、数人で大阪城巡り。ホテルから歩いてすぐのところにありました。日本の三名城の一つというだけあって、ものすごい貫禄がありました。三日目は、みんな寝不足で疲れているようでした。午前はライオン（株）大阪工場を見学しました。ライオンは、環境に優しい製品作りをしているそうです。工場の中では、柔軟剤と歯ブラシが作られていました。工場内に良い匂いが漂っていたのが印象的でした。午後からは、ダイハツ工業 池田工場を見学しました。さまざまな車種



があり、とても興味をそそられました。中には未来系の乗り物もあって面白かったです。夜は、たこ焼きを食べに行きました。やはり本場のたこ焼きはおいしさが半端なかったです。四日目は、日新電機本社工場を見学しました。落雷装置があり、実際に人形に落雷してもらいました。ものすごい衝撃と音でした。昼からは、嵐山に行き、楽しく過ごせました。

どの企業の人も自分の仕事に誇りを持って作業していたので素晴らしいなと思いました。この工場見学旅行では、日頃体験することのできない貴重な体験をすることができ、仲間との最高の思い出ができました。



オーストラリアへの工場見学旅行

電子制御工学科 4 年 酒瀬川健人

4 年生で工場見学旅行があるため、どこに行くかについてクラスでアンケートをとりました。その結果、海外と国内では海外が多い状況でしたので、クラスで話し合いを持ちました。そこで、「幅広い視野を持った技術者の育成のため、海外の工場を体験し、将来の技術者としての目標や夢を考える。英語圏の場合、英会話を通じて自分の英語力を試すと共に、英語の必要性を再認識する。また、今後の学生生活にその経験を生かす。」といった理由で、工場見学旅行先をオーストラリアに決定いたしました。

オーストラリアでの工場見学旅行についてQ&Aで報告いたします。

一世一代の大ボケでしょうかね？

— なんでも空港でいきなりトラブルがあったそうですね？

酒瀬川 そうなんです、一人寝坊で来られなかったんですよ鹿児島空港に。集合時間は昼の2時という最高の時間だったんですけどね。結局日本でお留守番でしたよ、一世一代の大ボケでしょうかね？みんな戸惑ってましたけどね。

どっちでもOKみたいなルールになってましたよ

— 飛行機は、だいぶ長旅だったようですね？

酒瀬川 そうですね、10時間以上ですからね。僕達の席は最後尾に固まっていたんですよ、それでトイレがその後ろに男女ひとつずつ付いていたんですけど、クラスはほとんど男子だから、男性用にすごい並ぶんですよ。で、一人が空いている女性用に入ったら、もうその後は男性用でも女性用でもどっちでもOKみたいなルールになってましたよ。

— 工場見学はどうでした？

酒瀬川 まず「ダイキン オーストラリア」という空調製品を作っている工場を見学しました。住宅用から大型の施設用まであらゆる空調製品を作っているそうです。大きな製造機械を間近で見ることができました。日本人は、オーストラリア人の3倍働く聞き、誇らしく思いました。また「品川リフラクトリーズ オーストラリア」という耐火物を作っている工場も見学しました。耐火物とはあまり聞きなれないですが、様々な産業を支えていて、その製造の過程を見られていい経験でした。また説明は英語と通訳という形で、自分なりに英語を解釈して通訳で答え合わせできるので、英語の向上心を刺激されました。

なんだ、知ってんじゃない

— 世界遺産はみましたか？

酒瀬川 あー、ブルーマウンテンなら何人かで見に行っていました。通称ブルマ組ですね。帰ったらブルマについて熱く語っていましたよ。

— オペラハウスはみんな見たんですよ？20世紀を代表する近代建築物ですよ？あれも世界遺産ですよ？設計者はデンマークの建築家、ヨーン・ウツソンですが、独創的な形状と構造設計の難しさなどにより工事は大幅に遅れ、1959年に着工したものの竣工は1973年だったそうですね。

あの構造はオレンジの皮から発想されたと言われており、また屋根は白とベージュ色のタイルが105万枚使われているそうですね？船から見た時に反射で眩しくないようにするためですよ？また、シドニー港に突き出した岬に位置し、貝殻やヨットの帆を思わせるシドニーのオペラハウスの外観は、シドニー・ハーバーブリッジとともに、シドニーを訪れる観光客の定番の撮影スポットになっていますね？

酒瀬川 なんだ、知ってんじゃない。

— コアラやカンガルーは見ました？

酒瀬川 本場のコアラ、やっぱりかわいかったですね。夜行性だから眠そうな表情とか、ふさふさなところとか。日本じゃあんなにたくさん見られませんからね。最高でした！カンガルーもよかったです。



— 海外での工場見学旅行はどうでしたか？

酒瀬川 オーストラリアの季節は初夏で、日本の桜といえるジャカラランダの紫色の神秘的な花が満開でした。自主研修では現地の人に声をかけられて、一緒に写真を撮ったりもしました。単語を並べてジェスチャーをすれば、大体の意思は伝わったように思います。聞き取り読み取りをもっと勉強して、異国の人もコミュニケーションがとれるようになりたいと思いました。今回海外の工場および都市を見学し、異文化に触れることが出来ました。国際的な感覚の一端がつかめたように思います。この旅行に連れて行って下さった先生方、友達、両親に感謝です。



工場見学旅行

情報工学科4年 崎田 智文

思い出す度、懐旧、いやむしろ羨望の念に抱かれてしまうのは僕の中であの経験がとてもよいものとなっている証拠だと思うのです。あー、また行きたいな東京。

平成21年、11月9日月曜日、僕達は工場見学旅行という高専生活の一大イベントの初日を迎えました。小雨の降る少し寒い日でしたね。そのとき差していた傘は高専に置いていったのですが、未だに見つかりません。（外部の人の仕業でしょうね！けしからん！）そしていよいよ鹿児島空港から東京へと飛び立ったのです。テリトリーが隼人町という僕にとって、都会デビューがいきなり首都とは…。いかにも飛行機乗りなれてますよ的なやつらを尻目に僕の心はウキウキでした。バイバイ、鹿児島！

東京は、晴れていて安心しました。さて、これからが本番です。本旅行で見学させていただいたのは、NTTサイバーコミュニケーション総合研究所（Clarinetとかすばらしかったです！）、日立アドバンスデジタル（先輩の生の声を聞かせていただきました！）、日立製作所ソフトウェア事業部（実際の職場を見学させていただきました！）、富士通川崎工場（SPARCとかありました！…SPARCって何だっけ？）、NHKスタジオパーク（天地人見ました！それと大木アナ、ありがとうございました（笑））など、どちらも有名な会社です。

密度の濃い見学過程で、多様でかつ質の良い経験をさせていただきました。感銘を受けたのは、自然環境をいたわった技術開発を行うという姿勢をどの会社でもとられていたことです。説明の中で、そういった企業の方針や理念を知ることができましたし、また説明そのものを受けて、人に向かって分かりやすく話をする能力の重要性も考えさせられました。自分の将来を考える上で、これらの経験は良い刺激を与えてくれましたし、きっとこれからの人生で役に立つと思います。

さて、何といっても楽しかったのは4日目の自主研修ですよね。きっとみんながそう思っていると思います。ネズミのいるテーマパークに研修にいきました、ええ研修にです。研修はとてもハードでした。フラフラになって、疲れきった僕を癒してくれたのが、秋葉原のメイド喫茶…じゃなくてヨドバシカメラでした。2Fのフットマッサージャーは足の疲労を全てさらってくれましたね。40分ほどしてすっかり元気になったので5Fのマッサージチェアのコーナーへ。全身の疲れをことごとくうばっていくあの機械に心までうばわれました（うまいですね）。

本旅行において、感想を述べさせていただくなら”感

謝“の一言に尽きます。企業の方々はもちろんのこと、先生方、バスの運転手さん、添乗員さん、友達、家族、そしてヨドバシカメラの皆さん、これらの人々の協力あつての工場見学旅行だったのだと思います。皆様への感謝の気持ちを大切にするためにも、本旅行で得たものを胸に、一生懸命に、そして楽しく働く立派な人間になることを志そうと思います。そしていつか、ヨドバシカメラのマッサージチェアを購入しようと思います。

最後になりますが、本工場見学旅行において、お世話になりました全ての方に心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました！



工場見学感想

土木工学科4年 戸越 誠也

僕たち土木工学科は、今回の工場見学旅行で主に4つの場所を見学しました。

まず、見学したのは黒部ダムです。黒部ダムは、日本一大きいダムで、その大きさは想像以上のものでした。今までにこんなに大きい構造物を見たことがなかったので、とても驚きました。ここでは、トロリーバスという電車のように電気で走る珍しいバスに乗ることができました。また、山の上には雪が積もっていて、鹿児島ではあまり触れることのできない雪に触れることができました。

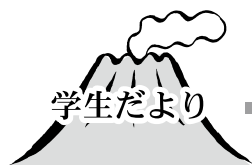
次に見学したのは、琵琶湖総合管理所です。ここでは、職員の方に琵琶湖の治水・利水などについての説明を受けました。琵琶湖に治水の必要があることを初めて知りました。どのような方法で治水されているかを知れてよかったです。

そして、次に見学したのは、神戸と淡路島を結ぶ明石海峡大橋です。明石海峡大橋は、世界最長の吊橋で、約4kmもの長さがあります。見学する前に、実際に明石海峡大橋をバスに乗って渡りましたが、その長さには驚きました。見学では、橋の車道の下を実際に歩くことができました。これは、一生に一度できるかできないかくらいのとても貴重な体験でした。世界最長の吊橋をつくることのできる日本の技術者はすごいと思いました。

最後に見学したのは、淡路島の野島断層記念館です。ここでは、阪神淡路大震災のときにできた地面のずれを見ることができました。あと、震度7の地震の揺れを体感しました。ここにきたことで地震の力のすごさを実感することができました。

今回の旅行は、移動時間が長く、とても疲れました。だけど、宿泊したホテルは、どこもご飯がおいしくて、とてもよいところばかりでした。この工場見学旅行は、忘れることのできないとてもいい思い出になりました。このことを、これからのことに役立てることができればいいと思いました。





学生表彰について

学生主事 岡林 巧

学則の規定に基づく学生表彰の種類は、皆勤賞、精勤賞、功労賞、スポーツ賞、文化賞、善行賞及び特別賞があります。これらの表彰の時期は、皆勤賞、精勤賞、功労賞に関しては卒業時か始業時に、スポーツ賞、文化賞、善行賞及び特別賞に関しては適時行うこ



とになっています。表彰のための推薦方法は、担任又は指導教員等の関係教職員が、推薦理由を付して文書により推薦することになっています。選考の方法は、学生委員会の議を経て、賞罰協議会で協議の上、校長が決定いたします。ただし、学則上問題のない学生については、賞罰協議会の協議を省くことができます。また表彰の方法は、表彰状を授与いたします。（学則：学生の表彰について抜粋）

これらの学生表彰規定に基づき平成21年11月26日（木）12時35分～小会議室において、出席者：校長、学生主事、指導教員、学生課長、学生係長、学生係立会のもとで、『スポーツ賞』：【団体の部】（弓道部、ソフトテニス部、テニス部、サッカー部）、【個人の部】（テニス部）：田上康平君、内門裕紀君、（陸上競技部）：中島佑太朗君、黒江拓也君、田崎力也君、松浦慎仁君、（水泳部）：西川央哲君、（弓道部）：宮内駿君、上野瑠衣さん、『文化賞』：【個人の部】（写真部）：木場千草さんの4団体、10名が表1に示しますように校長から表彰を受けました。又、『特別賞』：平成21年度総合学力調査成績優秀者として【総合得点各学科1位】（機械工学科）：今別府太樹君、（電気電子工学科）：リム・キムスルン君、（電子制御工学科）：邊志切琢磨君、（情報工学科）：鶴貴宏君、（土木工学科）：長瀬碧君、【共通科目全学科1位】（電気電子工学科）：リム・キムスルン君、【英語TOEIC全学生1位】（電気電子工学科）：リム・キムスルン君、【英語TOEIC一般学生1位】（電子制御工学科）：邊志切琢磨君らが表2に示しますように校長から表彰を受けました。表彰を受けた学生はもとより、他の学生諸君も今後とも益々精進されて多くのことに挑戦し、願いを成就させてほしく思います。



学生表彰 その1



学生表彰 その2



九州高専大会 陸上競技



全国高専大会 ソフトテニス競技

Ⅷ 学生表彰について（申合せ）

〔平成 12 年 12 月 20 日校長裁定〕
〔平成 13 年 12 月 21 日一部改正〕

学則第 43 条の規定に基づく学生の表彰については、平成 13 年 12 月 21 日以降、下記により行う。

1 表彰の種類

表彰の種類は、皆勤賞、精勤賞、功労賞、スポーツ賞、文化賞、善行賞及び特別賞とする。

2 表彰の基準及び時期

表彰の基準及び時期は次表のとおりとする。

表彰の種類	表 彰 の 基 準	表彰の時期	備 考
皆 勤 賞	(1) 在学中に欠課が皆無の者	卒 業 時	
	(2) その学年において欠課が皆無の者 (5 年は除く)	始 業 式	
精 勤 賞	在学中の欠課時数が 27 時間以内の者	卒 業 時	
功 労 賞	(1) 全国高専体育大会で優勝経験がある者 (2) 九州沖縄地区高専体育大会で 2 回以上の優勝経験がある者 (3) 学生会又は寮生会において顕著な功績があった者 (4) その他本校の名声を高めることに功績があった者	卒 業 時	ただし、左記の条件に該当しても、学則による懲戒処分のある者又は欠課の多い者（欠課時間が 5 年間で 111 時間を超える者）は除外される場合がある。
スポーツ賞	全国高専体育大会で優勝、準優勝若しくは九州沖縄地区高専体育大会での優勝又はこれに準ずるスポーツ大会で優秀な成績を収め、本校の名声を高めることに功績のあった者又は団体	適 時	
文 化 賞	(1) 文化活動又は学会活動等において本校の名声を高めることに功績があった者又は団体	適 時	
	(2) 本校内における文化的イベントにおいて優秀な成績を収めた者又は団体	適 時	
善 行 賞	社会福祉、人命救助及び重大事故の未然防止等、社会的に顕著な善行があった者又は団体	適 時	
特 別 賞	上記以外で学生の模範として表彰に値する者又は団体	適 時	

3 推薦の方法

担任又は指導教員等の関係教職員が、推薦理由を付して文書により学生主事に推薦する。

4 選考の方法

学生委員会の議を経て、賞罰協議会で協議の上、校長が決定する。

ただし、学則上問題のない学生については、賞罰協議会の協議を省くことができる。

5 表彰の方法

表彰状を授与する。ただし、表彰状と併せて記念品を授与することができる。

6 その他

功労賞は、スポーツ賞、文化賞、善行賞及び特別賞と重複して授与することができる。

表1 平成21年度学生表彰（スポーツ賞・文化賞）

◎スポーツ賞

○団体の部

種 目	大 会 名	成 績
弓 道 部	第31回全国高等専門学校通信弓道大会	準 優 勝
ソフトテニス部	第46回九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会	優 勝
テ ニ ス 部	第46回九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会	優 勝
サ ッ カ ー 部	第46回九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会	優 勝

○個人の部

種 目	学年・氏名	大 会 名	成 績
テ ニ ス 部			
個人シングルス (田上) 個人ダブルス	機械工学科 5 年 田上 康平 電子制御工学科 5 年 内門 裕紀	第46回九州沖縄地区 国立工業高等専門学校体育大会	個人シングルス 優勝 個人ダブルス 優勝 個人ダブルス 優勝
陸 上 競 技 部			
200m、400m 4 × 400mR	電子制御工学科 5 年 中島佑太郎	第46回九州沖縄地区 国立工業高等専門学校体育大会 100m、200m、400m、 4 × 400m R	優 勝
100m 4 × 400mR	電気電子工学科 5 年 黒江 拓也		
4 × 400mR	情報工学科 4 年 田崎 力也		
4 × 400mR	電子制御工学科 3 年 松浦 慎仁		
水 泳 部			
800m 自由形	電子制御工学科 1 年 西川 央哲	第46回九州沖縄地区 国立工業高等専門学校体育大会	優 勝
弓 道 部			
個人戦	電気電子工学科 2 年 宮内 駿	第31回全国高等専門学校通信 弓道大会	準 優 勝
女子個人戦	土木工学科 3 年 上野 瑠依	第39回西日本地区高等専門学校 弓道大会	優 勝

◎文化賞

種 目	学年・氏名	大 会 名	成 績
写 真 部			
チャレンジ部門	土木工学科 3 年 木場 千草	かのや「ばら」と「海」 フォトコンテスト2009	入 選

表2 平成21年度 総合学力調査成績優秀者一覧

総合得点 各学科 1 位		共通科目 全学科 1 位	
学 科	氏 名	学 科	氏 名
機 械 工 学 科	今別府 太 樹	電気電子工学科	リム・キムスルン
電気電子工学科	リム・キムスルン	英語 (TOEIC) 1 位	
電子制御工学科	邊志切 琢 磨	学 科	氏 名
情 報 工 学 科	鶴 貴 宏	電気電子工学科	リム・キムスルン
土 木 工 学 科	長 瀬 碧	英語 (TOEIC) 一般学生 1 位	
		学 科	氏 名
		電子制御工学科	邊志切 琢 磨

高専ロボコン2009を振り返って

メカトロニクス研究部長
機械工学科 4 年 松元 遼太

みなさんはロボコンをご存知でしょうか。たぶん知らない方はいらっしゃると思います。現在、ABU、大学、高校と世界中にたくさんのロボコンがありますが、元祖ロボコンと言えば高専ロボコンです。私が高専を知ったのもロボコンをテレビで見たことがきっかけです。世間では「高専＝ロボコン」と認知されていても過言ではないと思います。今回これを書くにあたり、部長として、またロボコンをしている立場から、今年度のロボコンを振り返りたいと思います。

はっきり言って今回のロボコンは、私が4年間携わっていて一番苦しいものでした。理由のひとつにルールが例年になく難しかったからです。ロボコンは毎年ルールが変わります。レースだったり、得点形式、ガチンコバトルだったりとさまざまです。2009年度のルールは「ダンスバトル」ということで、2台の歩行ロボットが与えられたダンス課題をこなすフィギアスケートのなものでした。その中にはロボットがバク宙したり、1台のロボットがもう一台を持ち上げたりと人間がするのも困難な課題があります。世間的にはロボットは歩いて当たり前と思われています。しかし実際につくるとなるととても難しいことです。ロボコンも時代のニーズに合わせてルールが変わります。歩行技術やダンスなどをルールに取り入れたのも、そういった高専生への期待の現われからだと思います。

また今年度は校舎改修とも重なり、工作機械を満足に使えない時期もありました。そんなこんなで、ロボットの完成も例年になく遅くれました。大会までに何度か先生方や保護者にお披露目会があるのですが、そこでロボットはダンスどころかピクリとも動かず、会場は“来年がんばれよ”というような空気で包まれていたことを覚えています。

しかしそんなことでへこたれるわけにはいきません。1年生から5年生まで死に物狂いで製作し、九州大会ではBチームは準優勝、Aチームは本田特別賞という結果になりました。Bチームは全国大会にも出場し、九州大会では挑戦することが出来なかったバク宙に挑戦。失敗はしたものの、全国大会で一番初めに大技を繰り出せました。

今回の結果が果たしてよかったのかと言われると決してそうではありません。私たちの目標はもっと高いものでした。しかし、蓋を開けてみると全国大会では全てのダンス課題を成功させるロボットや、自分たちが考えも付かないロボットばかりでした。そのようなチームに対

し我々は何かひとつ足りていない部分があったのだと思います。常日頃から知識や技術を磨き何事にもトライする積み重ねが肝心なのではないでしょうか。ロボコンはチームで動きます。この4年間でロボットをつくるうちにチームワーク、礼儀、知識、こだわり、技術力、根性など様々な事を学びました。またこれらのいずれかが欠けていると納得するロボットは出来ないとはいえませんでした。

最後に、部長としてチームをまとめられたのか、ひとつの目標に対してぐらつくことなく一途に進むことが出来たのか、振り返ると頼りない部長だったと思います。それでもめげずに一緒についてきてくれた部員たちに感謝です。また私たちが気持ちよくロボットをつくれるようにサポートしていただいた教職員、後援会、保護者、OBの方々にお礼申し上げます。来年もさらに精進してまいりますので、御声援よろしくお願い申し上げます。

学生会長を務めて

電子制御工学科 4 年 米田 壘

こんにちは。今年度学生会長を務めさせていただいた米田（メタ）です。早くも学生会長の任期を終えようとしています。うれしいです。

3 年のとき学生会に入り、交通局の下っ端だった僕は何をすれば良いのか何も分かりませんでした。本当は、寮長になるはずだったんだけど…ま、いろいろあって学生会長になりました。前学生会長に何をすれば良いか聞くと、「昼休みも放課後も学生会室にいるようにする。大変だけどそれが一番の仕事。」と教えてもらい、昼休みと放課後は必ず学生会室に行きました。まだその頃は「大変じゃないじゃん!!」と思っていました。

学生会長になるときに「学校を花でいっぱいにする」と言ったので、ひまわりを植えました。毎朝の水撒きが楽しく、日々成長していくひまわりを見ているとかわいくて元気をもらいました。

都城高専の留学生が闘病していると新聞記事を見て学生会で募金をしました。朝は正門で、昼は売店前で募金をしました。休日はサティで募金をさせていただきました。ご協力ありがとうございました。そのお金は都城親善大会のときに渡しました。

その他に、前期クラスマッチや車両登録、挨拶運動など前期は忙しい毎日を送りました。

そして後期。高専祭が終わり、実行委員、学生会が一段落つくと、放課後一人の学生会室が始まりました。外はすぐに暗くなり、一人ぼっちで、レポートや宿題、一人でマリオカートをした時もありました。その頃が一番キツかったです。

テストが終わると学生総会、来年度の学生会長選挙、隼人駅清掃、冬休み明けには、後期クラスマッチ、リーダー研修などなど…今、書いてみるといろんな事をしてきました。

いろんな事をして、いろんな人と話し、いろんな事を考えた一年でした。いろいろ大変で辞めたいと何度も思っていました。でも今はこの機会をくれた北菌先生に感謝しています。学生会役員的小伙伴们もありがとう!! 迷惑ばかりかけたと思います。そして、学生主事の岡林先生は学生の目線で物事を考えて下さいました。本当にありがとうございました。榎根先生も学校の美化やいろいろなアドバイスありがとうございました。濱川先生は口だけの人ではなく、一緒に活動してくださいました。山田先生は、鹿児島高専の大きな問題のひとつである通学指導や自転車の盗難などの事をしていただきました。

この一年間とても濃い一年でした。正直、ダメな学生会長だったと思います。でも、自分のプラスになったの

は確かです。この経験を生かしていきたいです。そしていつか、垂水市長になりたいです。

高専祭を終えて

体育祭実行委員長
電気電子工学科 4 年 園畑 浩樹

今年の体育祭は「去年の反省点を改善する」を目標に 4 月から取り組んできました。正直最初は余裕かななんて考えていたものの、いろんな問題とぶつかり、自分の無力さを感じて実行委員や教職員の先生方、周りの人々に多くの迷惑をかけてしまいました。

特にインフルエンザには頭を悩まされました。学級閉鎖などによって本番までの少ない時間を削られ、これはもうどうしようもないかなと考えていたとき学生からの熱い声が聞こえて、先生方と交渉してなるべく時間を作ってもらいました。

体育祭は基本的に学生が主体となって行うイベントですが、自分を支えてくれた体育祭実行委員、何事にも学生の意見を尊重してくださった先生方、高専祭前に学校を綺麗にくださった保護者の方々、他にもいろんな方の協力があったことを忘れないでほしいです。そして本当に感謝の一言です。

実行委員長を通して自分自身で一番感じたことは、人の上にたつ難しさでした。多分四年生の中にも感じた人がいるのじゃないでしょうか？責任の重さはもちろん、指導力や先の先まで見通して動く計画性がなかったなど反省しています。

最後に来年の体育祭を作っていく三年生へ、全力で頑張ってください。四年生での体育祭はとても楽しく一生忘れられないものになると思います。悔いの残らないように。

一、二年生へ、来年はまた一つ学年が上がり今年とは違う感じだと思うけど、四年生の言うことしっかり聞いて四年生を立てて下さい。

体育祭は永久に不滅です!!!

もう雨ふらないように…

文化祭を終えて

文化祭実行委員長
情報工学科4年 黒瀬 修吾

この原稿を書いている（2009年12月頃です）ちょうど一年程前、僕は、「来年度学生会長になろう！」と思っていました。公約はなんにしようかなーと悩んでいた矢先、前任者の先輩から文化祭実行委員長に指名されました。実行委員長を引き受けるのであれば、学生会長との兼任はできない…そしてなにより、楽しみにしていた応援団をする訳にはいかない。引き受けるかどうか真剣に悩みましたが、同学年の実行委員や学生主事補の先生方と相談した結果、せっかく指名されたのだからと、引き受けることに決めました。

僕は、2年生の頃から文化祭実行委員として活動していましたが、いざ実行委員長をするとなると、最初の頃は右も左もわからず、手探りで仕事にあたっていました。本番で問題を起こす人がいたらどう責任取ろう…とか、そんなことばかり考えていて、不安で息苦しい毎日だったように思います。でも、一度引き受けたからには、最後までやるぞ！という思いでなんとか頑張りました。

まず、「実行委員長なら、文化祭のすべてを知っていないくては！」と思い、前任者であり、今年は副実行委員長を務めて頂いた蔵元さんをはじめとする、実行委員の先輩方にあっちもこっちも聞き、文化祭の資料すべてに目を通すことから始めました。そうすることで、何となく、実行委員長のすべきことが見えてきたように感じました。そして次に、「何か例年にないおもしろいことをやろう！」と思いました。そんな折、「吉本新喜劇が50円であなたの町に！」というWebサイトを見つけて、これだ！！と思い応募しました。これは、残念ながら抽選で落選しましたが、実現していれば大盛況だったのではないのでしょうか。

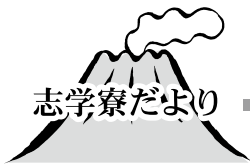
そうこうしている内に、文化祭本番がもうすぐそこに来ていました。新喜劇以外は順調だったのですが、文化祭まであと5日と迫ったころ、パンフレットの適切なない表現を先生方に指摘されました。すでに、パンフレットは2000部刷り終わっていたのですが…高専の品位のためにと、この不適切な部分をすべてシールで貼り直すことにしました。僕が厳正なチェックを行っていただければこんな事態にはならなかったのですが…その際は実行委員、教職員の方々に多大なるご迷惑をかけてしまいました。申し訳ありません。

そんなトラブルも解決し、迎えた文化祭当日、一日中あっちに行ったりこっちにいたりしていると、本当にあつという間に終わってしまいました。途中、全日程を

30分繰り上げるという事態もありましたが、準備から片付けまで、異例の早さで終えることができました。これも実行委員の頑張りのおかげです。本年度の実行委員は、その殆どが昨年からのメンバーだったので、僕が突っ立っていてもテキパキ仕事をこなしてくれました。みんな本当にありがとう。偉そうにしているだけで、皆に任せっきりでした。ごめんなさい。教職員の方々、ご協力本当にありがとうございました。学生が楽しいと思えたなら、それだけで文化祭は大成功です！

最後に、本年度の高専祭期間中は、非常に濃密な時間を過ごすことができました。しかし、新喜劇がダメになってからは、無難に終わらそうという意識が強くなってしまい、結果、味気ない文化祭となってしまいました。それが、一番の心残りです。この反省を生かし、後任者には、少し手荒でも面白みのある文化祭を目指してほしいと思います。





志学寮・雑感Ⅱ

寮務主事 南金山裕弘

夏休みが終わり、10月1日から後学期が始まりました。

本来は、授業開始前日の9月30日（水）が開寮日でしたが、当日は平日だったため、保護者による荷物搬入を考慮して9月27日（日）に特別出勤しました。事前連絡が行き届いていなかったのか、思ったほどの混雑もなく、無事に学寮の後学期が始まりました。

開寮するや否や、インフルエンザ関連の報告が入り、夏休みの終わり近くでの感染者が数名居たとのことでした。しかし、これはあくまでも序章で、1週間も経つと早速、1クラスが学級閉鎖となりました。これは体育祭の応援団の練習で広がったようで、応援団の練習やグラ絵作業を制限することで何とか拡大を防ぐことが出来ました。また学寮では、学級閉鎖となったクラス全員を帰省させましたが、幸いなことに離島を含む遠隔地出身者に感染者が居なかったため、それぞれ自宅や親類宅へ一時帰省してもらうことが出来ました。

11月に入ると、インフルエンザ感染者が多数出始め、初旬に2クラス、終わり近くに立て続けに4クラスの学級閉鎖となりました。この頃になると、遠隔地出身者でインフルエンザ感染する寮生も出て来て、帰省させることも出来ず、また保護者も迎えに来ることが出来ない状況が発生しました。しかも、医者からタミフルを処方されたため、服用後48時間の完全監視体制を取らねばならず、また感染拡大を防ぐためには学寮内に寝起きさせることも出来ないため、本校の教職員宿舎にて特別に当直を当てて対応することとなりました。もちろん、1日3回の食事についても学寮食堂から宿舎まで運ぶこととし、タミフルを完全に服用し終わるまでの5日間、担任の先生をはじめ、学生支援係（寮務）、寮務委員会で対応しました。時には、当直者の都合がつかずに、学生主事にまで応援を頂きました。本来の当直もある中、インフルエンザ感染は突然のことなので、特別な当直者を事前に割り振ることも出来ず、その人員確保は大変でした。

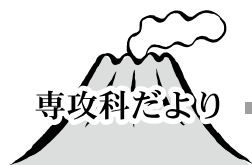
12月に入り、鹿児島県教育委員会などのインフルエンザに対する指導指針を参考に、学級閉鎖等の基準をクラス定員の1割から2割に変更しましたが、それでもその1週間後には、また1クラスが学級閉鎖となりました。特に、この時期は後学期中間試験がありましたので、成績評価や学級閉鎖クラスの補講など、教務上も大変な状態でした。このような状況の中、学年末の補講日を確保するため、急遽、12月末の授業延長が決まり、延長分の当直者の確保や学寮食堂の対応など、その手配に大変で

した。ここでは、教務委員会及び学生委員会のご協力を仰ぐことで、何とか対応することが出来ました。

この3ヶ月間、ほとんどインフルエンザに振り回された感が強いのですが、幸いなことに、学寮での感染者は最大でも20余名、ここ最近では1桁の人数でしかありません。発熱の早い段階で対応し、保護者への連絡、あるいは病院への搬送など、学生支援係（寮務）や毎日の当直の先生方のお陰で学寮での感染拡大が無かったことにとても感謝しております。

今、この文章を書いているのは、12月25日（金）です。明日、午前11時には閉寮します。年末・年始、しばらくはのんびり出来ます。明けて1月6日（水）の午前10時に開寮です。寮生全員が元気に戻って来てくれることを期待しています。しかしながら、この時期、各地から親類、知人、友人が訪れ、またいろいろな所に出掛けて行くことでしょう。そこでまた、インフルエンザに感染し、それと共に学寮に戻って来ることを考えると、心配でなりません。「来年の話をする、鬼が笑う」と言いますが、例え笑われても、先を予測し、その対応を考えておかねばなりません。少なくとも、学寮でのインフルエンザ感染拡大だけは避けなければならない、最重要項目です。

ちょうど1年前、最終登校日のLHR直前に校長に呼ばれて、寮務主事の打診を受けた時には、こんなに忙しい1年になるとは予想していませんでした。まだまだ、やらなければならない項目が山積みです。



専攻科で養成する技術者像と カリキュラム

専攻科長 原田 治行

前回の61号では、進路の参考にしてもらうために、専攻科の特長を、経済性、求人倍率の高さ、大学院進学や修習技術者および技術士補の資格取得の有利性の面から、説明をしました。

今回は、「本校の専攻科で養成する技術者像」を平成20年12月24日に文部科学省の中央教育審議会が報告した「高等専門学校教育の充実について-ものづくり技術力の継承・発展とイノベーションの創出を目指して-（答申）」に基づいて説明をしたいと思います。その後、その技術者を養成するために専攻科で用意しているカリキュラムについて説明します。

学校教育法では、専攻科の目的を次のように規定しています。

「高等専門学校を卒業した者等に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導すること。」

しかし、わかりにくいので、前述の（答申）では具体的にどのような技術者を養成するかについて次のように表して、専攻科の目的を説明しています。

(1) 専攻科で養成する技術者像

専攻科は本科における教育の基礎の上に立って、特定の専門領域におけるより高度の知識・素養を使いこなすことによって理解の程度を深化させ、複合領域に対応できる幅広い視野を身に付け、高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者を育成する。

もっと具体的に説明すれば、本科で受けた基礎教育の上に身に付けた高度な専門技術は、専攻科修了後に企業に就職し、企画、研究開発、設計などの業務にかかわる場合に有利であるが、多くの場合は、自分の専門の知識や技術のみでは十分に仕事ができない。そこで、自分の専門以外の基礎的知識も身に付け、複眼的視野を持ち課題の解決に応用力を備えた実践的・創造的技術者を育成するということです。

さらに、（答申）では、各高等専門学校においては、それぞれの学校の個性・特色に応じて専攻科で養成する人物像を明確にした上で教育の充実を図っていくことが重要であると書かれています。

(2) 本校の専攻科で養成する技術者像

そこで、本校の専攻科教育で養成する技術者像について説明をします。前回の61号で説明したように本校の技術者教育プログラム「環境創造工学」は、JABEE（日本

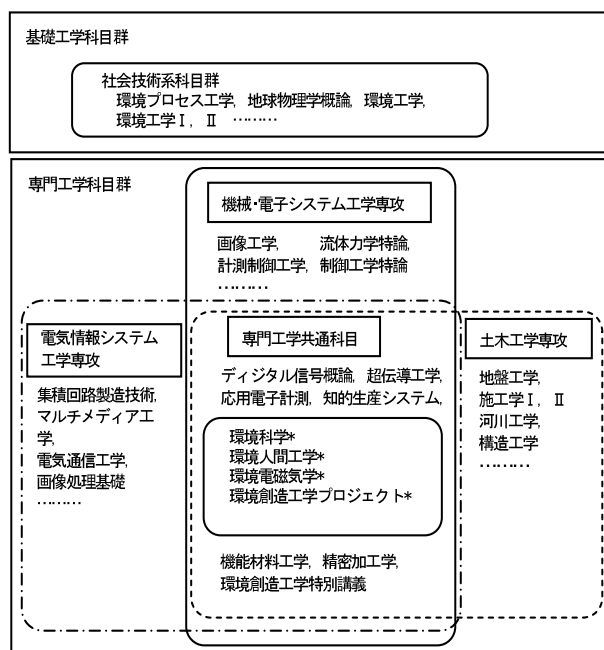
技術者教育認定機構）から国際的に通用する技術者教育プログラムとして認定を受けています。専攻科生は、JABEE認定技術者教育プログラムの履修生です。従って、専攻科で養成する技術者像は、JABEE認定技術者教育プログラム「環境創造工学」で養成する技術者像と合わせたものになります。

すなわち、本校の専攻科で養成する技術者像は、機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻および土木工学専攻において、本科で修得した専門分野の技術および知識を深め、さらに複合領域に対応できるように、人間の社会活動が環境に及ぼす影響を学んで、専門分野及びその他の分野の知識と結びつけることによって、地球環境及び生態系に極大影響を与えない（リサイクル、ローエミッション、エコロジー）、環境に配慮したものづくりができる技術者です。

(3) 技術者を養成する本校の専攻科のカリキュラム

このような技術者を養成するためには、カリキュラムは、①人文科学・社会科学・外国語系、②数学・自然科学・情報技術系、③基礎工学、④専門工学の科目群で構成されています。特に、複合領域に対応できるように、「基礎工学」と「専門工学」の科目には、次のような特色があります。

- (a) 環境に配慮する能力を身に付けるための環境に関する共通科目をコア科目として必修化しています。
- (b) 自らの関心または必要性に応じて専攻分野以外の科目を履修するために、専攻分野以外の専門共通科目を指定してその中から1科目以上修得することを義務付けています。



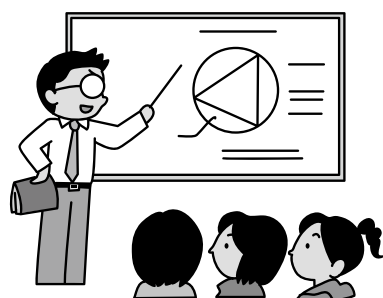
*は、必修科目である

図1. 基礎工学、専門工学のカリキュラム

(c) 各自の専門分野の知識と (a) と (b) の知識を結びつけて問題を解決する能力を身につけさせるための科目（環境創造工学プロジェクト）を必修化しています。

「基礎工学」と「専門工学」のカリキュラム構成を図1に示します。

このように、専攻科2年間の教育は、本科5年間の工学の基礎教育の上に立って、7年間の一貫教育に基づいて技術者の養成を行なっています。あなたも、専攻科に進学して、複眼的視野を持った課題の解決に応用力を持った実践的・創造的技術者を目指しませんか。



専攻科説明会

専攻科長 原田 治行

今回は、進路を考えている4年生対象に専攻科の説明会を開催した様子について紹介します。

説明会は、後期中間テスト最終日の12月4日（金）に開催しました。機械・電子システム工学専攻については田畑専攻長が、電気情報システム工学専攻については今村専攻長が、土木工学専攻については堤専攻長が行いました。各学科からの参加者は、機械工学科11名、電子制御工学科10名、電気電子工学科13名、情報工学科19名、土木工学科6名、合計59名の参加がありました。

参加者の中には、専攻科入学希望者、大学編入学希望者、進学先を決めかねている学生、就職希望者や、就職か進学か決めかねている学生がおり、活発な質疑応答があり有意義なものとなりました。説明会の様子を写真1から3に示します。説明会の後、アンケートに答えてもらいましたので、主な内容を以下に紹介します。

まず、説明会を聞いた後の、気持ちを尋ねました。その結果を表1に示します。現在、34名の学生が専攻科に進学を希望していますが、まだ、20名の学生が進路について迷っているようです。

次に、教員からみて専攻科教育が魅力的と思う項目を5つあげて、その中から参加者が魅力的と思う項目を複数選んでもらいました。その結果を表2に示します。

一番多かったのが、③番の「学士の資格を習得するまでの費用が大学に編入学するより大幅に安いこと」でした。次に、⑤番の「大学院への進学のしやすさ」、①番の「本科の教育の延長線上にある専攻科の教育」、④番の「特別研究を行うことで、研究能力や表現力およびコミュニケーション能力が身に付く」、一番少なかったのが②番の「TOEICに関して英語力が身に付く」でした。

また、自由記述で、国立大学編入のほうが魅力的と思っている場合について、その理由を書いてもらいました。

一番多かった内容は、5年間同じ環境で勉強したので、新たな環境で勉強し、新たな交友関係を築き大学生活を送りたいというものでした。このことを一番大切に思っている人には、専攻科は魅力がないのかも知れませんが、スキルアップ（技術に関する知識、技術、経験、資格などを習得・取得する）や、キャリアアップ（スキルアップの結果、よい職業について、よい待遇につく）を一番考えている人には、専攻科は魅力的だと思います。専攻科に進学して、スキルアップしてキャリアアップにチャレンジしてみませんか。

表1. 今日の説明会を聞いて、今の気持ちを聞かせてください。

項目：今日の説明会を聞いて、今の気持ちを聞かせてください。	人数
①専攻科進学希望であったが、益々、専攻科に進学したくなった。	30
②大学に編入学希望であったが、益々、大学に編入学したくなった。	1
③大学に編入学希望であったが、専攻科に進学したくなった。	4
④専攻科進学希望であったが、大学に編入学したくなった。	0
⑤就職希望であったが、専攻科に進学したくなった。	0
⑥就職希望であったが、益々、就職したくなった。	1
⑦まだ、進路について迷っている。	20
⑧その他	1
⑨無回答	2
合 計	59

表2. あなたが専攻科教育に対して魅力的と思っている内容を、下記の項目から選んでください。(複数選択可)

項目：あなたが専攻科教育に対して魅力的と思っている内容を、下記の項目から選んでください。(複数選択可)	人数
①多くの大学が、高専からの編入学生の数が少ないので、高専からの編入学生用のカリキュラムを用意していないところが多いが、専攻科は本科の実験実習を基にした教育の延長であり、専門をさらに深められるので、企業から高い評価を受けている。	27
②エンジニアとして企業が要求しているTOEICの点数は600点ぐらいである。専攻科の修了要件はTOEIC400点相当であるので、もう少し頑張れば、600点をクリアできる。	8
③大学編入学と比べて教育費が非常に安い。「学士」の資格を取得するまでには、大学編入学よりも約80万円安い。	43
④特別研究では、指導教員からマンツーマンで2年間指導を受けて、ひとりで論文をまとめて学会で発表することを義務付けられているので、表現力やコミュニケーション力がつく。大学では、4年生から1年間で卒業論文を書くが、複数で研究する場合が多く、また、ほとんどの大学で、学会での発表が義務づけられていない。	20
⑤国立大学の卒業生の約70～80%が大学院に進学する。自分の希望する研究室に入るためには、クラスの学生と競争しなければならないが、専攻科生のほとんどが推薦で大学院に入学している(東大、名古屋、九大、北陸先端、豊橋、長岡技科大等)。特に、専攻科生特別推薦枠があるので、希望する研究室に入りやすい。	34
⑥その他(自由記述)	2



写真1. 機械・電子システム工学専攻説明会の様子



写真2. 電気情報システム工学専攻説明会の様子



写真3. 土木工学専攻説明会の様子

機械・電子システム工学専攻 修了生に贈る言葉

機械・電子システム工学専攻長 田畑 隆英

機械・電子システム工学専攻を修了し、技術者として巣立っていく皆さん、修了おめでとうございます。また、保護者各位のお喜びもいかにばかりかと存じ、改めてお祝い申し上げます。

さて、専攻科課程を修了し、学士および修習技術者としての資格も取得し、実践的技術者としての素養は十分身についたことと思います。今後も一層の勉学と実務経験を積み、自分のおかれた立場で自信をもって全力を尽くして奮闘して下さい。修了生の皆さんが巣立っていく社会情勢は、不況によるデフレスパイラルの一步手前とも言われており、決して楽観視できません。しかし、鹿児島高専専攻科で学んだことを糧として、大いに活躍し、社会に貢献してもらいたいと思います。そして、なにより何事に対しても実践してみることが大切です。

そのためにも、ぜひ、「体も健康、心も健康」であり続けて下さい。健康でなくなったとき、会社の待遇はとても冷たいものであり、健全な生活を送るためにも、元氣であることが肝要です。また、心も健康でなければなりません。社会生活はとても厳しいものであり、時には、とても強いストレスにさらされることがあるものです。ぜひ、仕事とプライベートでの気持ちの切り替えを意識して行うことと、何らかの心のよりどころを見つけることに心掛けて下さい。

ここで、現代の多忙で効率重視の世の中でも、決して忘れて欲しくないことがあります。それは、「相手の立場になって考えてみること」および「感謝の気持ち」であろうと思います。例えば、製品を設計する際、それを使用する人のこと、メンテナンスを行う人のこと、そして、廃棄された後に処分を行う人のことを考えれば、さらにより製品ができるものと思います。また、今の自分があるのは、保護者をはじめとする周りの人たちに育ててもらったおかげだということを忘れないで下さい。今後、今まで当たり前のように思っていたことが、実は多くの人たちに支えられていたことを実感する機会が多くなるものと思います。ぜひ、感謝する気持ちを忘れずに、大いに活躍し、社会に貢献してもらいたいと思います。

皆さんが、「こんな製品をつくりました。見て下さい。」と来校してくれる日を楽しみにしています。最後に、「切実さが高まりを産む。」を餞に贈る言葉としたと思います。

贈る言葉

電気情報システム工学専攻長 今村 成明

電気情報システム工学専攻の修了生の皆さん、修了おめでとうございます。また、保護者の皆様、ご子息の修了、心よりお祝い申し上げます。

本科1年生からの7年間、4年次からの編入生は本科4年生からの4年間は、長いようで短く、あっという間だったと思います。また、専攻科に進学してからは、ほぼ研究漬けの毎日で、思うような研究結果が出ず悩んだこと、実験がうまくいって興奮したこと、それに場合によっては理不尽なことで叱られたこと、その他、様々な事があったかと思います。専攻科修了後は、皆さん、それぞれの大学院へ進学することになりますが、大学院へ行っても、そして社会に出ても活躍してくれることを期待し、一言だけ贈りたいと思います。

それは「叱られているうちが華」ということです。叱られることは誰も嬉しくはないですが、叱ってくれるということは、その人にまだ成長の見込みがあるからだとか、大切に思っているからだとかよく言われます。私も親から「あなたを大事に思っただけで、叱らないよ」（鹿児島弁風に）とよく言われました。叱られる度に「うるさいな」くらいにしか思っていませんでしたが、社会人になってから、そして結婚し子供が出来てからは、親の言っていたことが分かる気がします。叱られることは大変有難いことだと思います。

また、叱られることにより、今度はこうしようとか、ああしようとか考えるものです。最近聞いた話で「考えることで成長する」、「理不尽な経験をしないと成長しない」というのがありました。それがたとえ理不尽なことであっても、叱られ、考えることが自分の成長の糧になると思います。叱られた当初は、反発したくなったり、気分が落ち込んだり、嫌な気分になりますが、それを前向きに捉え、自分の成長に生かして下さい。

ただし、あまりがんびりすぎると心の病にかかってしまいますので、心の病には気を付けて下さい。何も問題のない職場はほとんどなく、どこに行っても何かしら悩みや不満を抱えるものです。そこで大事になるのは、悩みや不満の解消方法だと思います。友達に愚痴をこぼしたり、趣味に没頭したり、何も考えない時間を作ったり（寝るときぐらいか…）と何でも良いので、悩みや不満の解消方法を持って下さい。

最後に、心と体の健康には気を付け、また元気な姿を見せて下さい。

贈る言葉

土木工学専攻長 堤 隆

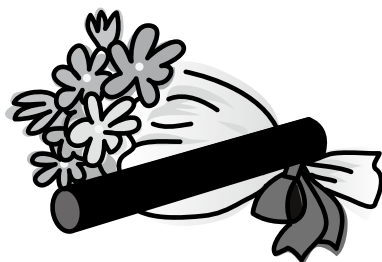
まずは4名の土木工学専攻修了生に修了おめでとうございます、と申し上げます。学会等での研究成果の発表、TOEIC400点クリア、大学評価・学位授与機構の審査に加え皆さんは全員カナダあるいはタイでの海外インターンシップに参加しました。大学卒業生に比べて超えるべきハードルの数が多く忙しい毎日だったと思いますが、それだけエンジニアとしてゆるぎない実力を培ってきたものと思います。どうぞ自信をもって社会に飛び出して行って欲しいと思っています。

今さら私が言うまでもないことですが、学校での生活と社会人としての生活は大きく異なります。学校では勉強するだけ、つまり努力するだけで先生から褒められ成績もあがり評価されてきました。しかしながら、社会人は大した努力もしていないのに評価されたり、逆に一所懸命頑張っても評価されなかったり、といったことがよく生じます。評価されなければ悲しいし、過大な評価を受ければ周囲の人の妬みをかたりもする。ですから、評価を気にするよりも「いま何をすべきか」と素直な気持ちで事に取り組むことが大切と考えます。松下電器(現パナソニック)創業者松下幸之助氏はこう仰ってます。

「逆境もよし順境もよし。要はその与えられた境涯を素直に生き抜くことである。素直さを失ったとき、逆境は卑屈を生み、順境は自惚れを生む。」

また、皆さんは希望に燃えて就職したにもかかわらず、配属先は皆さんの希望とおおよそかけ離れたところであるかもしれません。意見が分かれるところかもしれませんが、私は「とりあえず2、3年頑張ってみれば」とアドバイスします。というのも、その部署でしかつけないことができない技術力というものがあるからです。マイナーな分野であれば競争相手も少なく逆にその分野のオーソリティーになれるチャンスもあります。

7年間過ごした本校は皆さんにとって心の故郷であります。心が疲れたとき、そうでないときでも指導教員の先生や専攻長であり4、5年担任としてお世話させていただいた私のところには是非顔を見せてください。我々はいつでも皆さんを歓迎します。



障害（病気）と偏見

学生何でも相談室長 松田 信彦

今年度に入り、様々なメンタルヘルスや学生相談に関する研修会に出る機会に恵まれたが、その場でよその高専の教員と話をすることも多い。そのとき、必ずといって良いほど話題になることが、発達障害の問題である。

発達障害というのは、さまざまなパターンがあるので、一言で説明することはできないが、よく耳にするのは「アスペルガー症候群」や「ADHD」であろう。これらの問題の一つに、はっきりとした診断が難しいことが挙げられる。いわゆる身体障害の場合は、客観的に認識しやすく、サポートもしやすい。しかし発達障害の場合、いわゆる境界域（グレーゾーン）の部分が広く、専門家でも意見の分かれることも珍しくない。専門家でもそういう状態なので、なかなか一般の我々には、特に当事者でないかぎり、切実な問題としては認識されにくい。これまでは、そうかも知れぬと思っても、見て見ぬふりをしてきたのが実状なのかもしれない。

だが、ここにきてようやく、こういう問題から目をそらさずに、教育の現場でも積極的に受け入れ、対応するよう、国は「発達障害者支援法」を施行した。平成17年4月1日付けで、文部科学省・厚生労働省の事務次官の連名で、各都道府県・市町村の首長、各大学の学長、各高専の校長、そして各教育委員会の教育長に対して、発達障害を持つ学生には、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、適切な教育的支援、支援体制の整備、その他の必要な措置を講じ、また、大学及び高等専門学校は、適切な教育上の配慮をすることを通達した。これにより、確かに発達障害のある学生への支援は広がっていき、一般の理解も深まったように見える。

しかし、本当の課題はもうひとつ別のところにあるのではないかと考える。それは、そのような学生に対する偏見である。一般に発達障害の中でも、ADHDやアスペルガー症候群などは、学習困難を伴わないケースが多く、高専や大学などの高等教育機関には、実は多くのそのような学生が在籍している。また先ほど述べた、いわゆる境界域の学生も含めれば、その数はさらに多くなるだろう。そのような学生の中には、素晴らしい才能を秘めている場合もある反面、例えば周りの人間とうまくコミュニケーションが取れない、あるいは、他人の気持ちを上手に察することができないなど、様々な特有の症状から、周囲の人間となじめず、場合によってはイジメや仲間はずれなどのトラブルに発展したり、変わり者だと偏見の目で見られることは珍しくない。

ただ、一方でこのような学生は、興味のある分野において、非常に素晴らしい能力を発揮することもある。例えばエジソンが幼少時は、変わり者だと思われていたエピソードは有名である。今となっては確認のしようがな

いが、彼はADHDだったのではないかと推測する人もいる。同様の例でよく名前が挙がるのは、アインシュタインや、ウォルト・ディズニー、アンデルセン…最近ではビル・ゲイツなどだろう。こうなるとどこまでが本当なのか、話半分に聞く必要があるが、大事なことは、そういう学生に対し、偏見をもつことなく周りが接して、本人の能力や個性を引き出すことが重要となってくる。法律やシステムなど、いくら支援体制を整えても、周囲の人々の理解なくしては、支援は不可能である。

その学生の（人とはちょっと違う）特徴を、障害とするのではなく、まずは個性として認識することが、法律よりもシステムよりも、何よりも最大の支援なのではないだろうか。その意味では発達障害と呼ぶこと自体、私は好ましいとは思わない。「障害」という言葉は障害を持っていない（と思い込んでいる）人々から見たレッテルにすぎないからだが、今は適当な呼び方がないので、やむを得ずこの言葉を使う。

ところで、私は相談室長のかたわら、普段は国語を教えているのであるが、1年の教科書に高村光太郎という詩人が出ている。ご存知の方も多いだろうが、彼の妻、智恵子は光太郎と結婚後、当時の呼び名で精神分裂病（現在でいう統合失調症）を発病する。結果、彼女は長い闘病の末、いわゆる精神病院に入院したまま亡くなる（直接の死因は、粟粒性肺結核）。統合失調症は、幻覚・幻聴などがあり、智恵子もそうであったことは、彼の残した詩にも、明確に表現されている。時に光太郎自身のことが分からなくなってしまうこともあり、壮絶な闘病（看病）の生活であったことは、彼の残した文章からも伝わってくる。しかし、彼の智恵子に対する愛情は深く、そのように精神に変調をきたす智恵子に対し、彼女の病気を「宿命的に持っていた精神上的素質」と、非常にポジティブに表現する（「智恵子の半生」）。

現在のように、医療もすすみ、精神的な面における障害や病気についても、以前より認識が深まり、法的にもシステマ的にも支援体制が整いつつある現代でも、まだまだ、発達障害や精神疾患についての偏見は消えていない。しかし、今から70年も前に、智恵子の心の病気を彼女の「素質」と言った光太郎の言葉は、我々に対し、そのような偏見を持つことの無意味さと、今、我々に何が必要なのかを明確に示しているように思うのである。

今後、発達障害や精神疾患の人に出会うこともあるだろう。しかし、そこに偏見の目を向けるのではなく、「宿命的に持っていた精神上的素質」つまりは「個性」として、積極的に受け入れることが必要となろう。学校においては、本人の個性を尊重し、可能な限りの支援をしていかなくはならないし、家族や友人を含め周囲の人間は、暖かく見守っていく必要があるだろう。そうすることで、はじめて支援ということが可能になるのではないだろうか。

文学と工学の交錯

一般教科文系 松田 信彦

私の研究分野は、日本文学であるが、いわば文学研究の中でも基礎的な文献学的研究がその中心であった。対象は『日本書紀』という奈良時代の歴史書であるが、文学の立場から、書いてあるもの（文字）に忠実に、正確に作品を読み解くこと…ごく簡単に言えばそういう学問である。特に私は、作品の内容というよりは、文字（表記）を通して、その作品がどのように作られたのか…つまり成立と編纂ということがテーマである。

日本書紀は全部で30巻から成っているが、その成立が720年ということと、舎人親王が編纂事業の責任者であったこと以外、具体的な編纂の実情が現在でもよく分からないのである。従来から、その30巻を一人の人間が編纂したものか、複数の人たちの手によるものなのか、その人はどのような人なのかよく分かっていないのである。それを解明するには、各巻の文章や文字遣いを丁寧に調べ、分析し、その特徴やクセを見ていくしかない。しかし、細かなことは省くが、現在でもまだ私の納得できる説は世に出ていない。

ところで、本校のような、いわゆる理工系の学校というのは、多くの文学研究者には、あまり居心地のいいところではないらしいが、私にとっては非常に刺激的な職場である。世間話ひとつとっても、文系の人間とは発想が違う。まして研究方法などは、文学の人間には想像もできないような方法を知っている。つまり、普通の文学研究者が使わないような分析方法なども、ここでは普通に使われていたりするのである。

私は赴任してすぐに、同じ吹奏楽部の顧問をしている幸田先生から、多変量解析という分析方法があることを教えていただいた。その中でも、クラスター分析という分析法が私の目指す研究と非常にマッチしていたので、すぐにその方法を用いた分析をやってみた。簡単に言えば、日本書紀の文字遣いについて、複数の文字の相関を見て、各巻の傾向を分析していく方法である。この方法を用いると、人間の目で分析する以上に細かく、また正確に分析してくれる。従来の文学研究で用いることのなかった方法を用いることで、新たな成果が出始めている。このように、理工系の学校にいる利点を最大限に活かし、文学と工学の交錯した新たな世界を見い出すことに、私自身、わくわくしている。

現代正義論論争に対するスコットランド啓蒙思想からの提言

一般教科文系 中村 隆文

中世の神学からはなれ、人間の知性・理性によっていかに法・規範の正当性が理解可能であるか、と問われはじめたのは、およそ16世紀後半であったといってもよいであろう。とりわけ、イギリスのトマス・ホッブズやジョン・ロックなどを代表とするイングランド型の社会契約論は、「合理的な人間であるならば、どのような合意を結ぶか」というテーマのもと、国家と市民との関係（といってもそれは実質上、国王と貴族もしくはジェントリとの関係であったが）について独自の議論を展開しているのであるが、それはいずれも、社会的正義が合理的なものとして正当化されうる条件を論じているものといえる。

もっとも、社会契約論の難点として、(1)今を生きる我々は実際に契約などしておらず、それゆえ、現行法の正当性を立証する契約論の事実がないこと、そして、(2)契約論においては、合意形成の場に立つことさえできない社会的弱者を見過ごしがちであること、の二点が挙げられてきた。こうした難点を踏まえ、18～19世紀にはジェレミー・ベンサムやジョン・スチュアート・ミルなどの功利主義者が台頭し、その影響を受けた論者（法哲学では主に「法実証主義者」と呼ばれる人たち）が社会的正義と法について、「事実、人々が何を望んでいるのか？」という点を考慮すべきであると提言した。

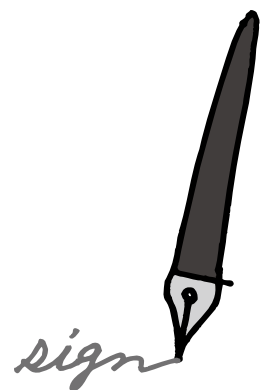
もっとも、こうした反契約論の立場に対し、私的所有権を強調するロックの契約論をその思想的背景とするアメリカの自由主義者たちは、「現状の事実がどうであれ、守られるべき価値というものは決まっている（それゆえ、私有財産や基本的自由は絶対不可侵である）」として、それを保護する法こそが社会的正義に適っていると主張してきた。また、ジョン・ロールズが20世紀半ば以降に著した『正義論』において現代的に契約論が再構築されてからは、「功利主義は個人々々を非人格的なものとして計算し、効用という数字のみで物事を考えている」という功利主義批判も頻繁に展開されるようになった。

こうした形での、契約論vs. 功利主義、もしくは、「あるべき法（価値）を重視する自然法論」VS. 「望まれているもの（事実）を重視する法実証主義」の論争は現代正義論においても継続中であるが、その根底には、正義理解についての「理性中心主義」VS「選好（欲求）中心主義」といった哲学的対立があるように思われる。これは「知識」と「感情（もしくは欲求）」のどちらに軸を置くかで論争しているようなものであり、結局のと

ころ、正当性の根拠は主体外在的に「在る」か、あるいは「無い」の二者択一的な議論となっている感がある。

これに対し、私はスコットランド啓蒙思想における「道德感覚」という概念を導入してゆきたい。「社会的共存」というバランスをとるための重心は「普遍的な価値」として特定できないものの、しかし個々人の欲求（選好）という間主観的事実の一致のみがそのバランスを維持させているわけではない。その状況に放り込まれた個々人が、「バランスをとるための適正な姿勢」を感覚的に理解してはじめて、可能性として存在していた重心が現実的なものとして理解可能となる。つまり、社会的共存のための「公平」という重心部分を探ろうとする正義論争において、絶対的なものとしての普遍的価値を指定するような実在論も、また、そのような重心などは「実在しない」という反実在論も、どちらも重要なバランス感覚、すなわち「道德感覚」を見過ごしているように思われる。

こうした観点から、今後はスコットランド流のモラル・センス論者たちに焦点をあて、社会的正義に関する諸論争に参入し、何らかの提言をしてゆきたいと考えている。これに関しては、現在、文部科学省科学研究費補助金若手Bにおける「「新たなヒューム主義」のもとでのルール・責任概念」（課題番号21720004）というテーマのもと研究しているが、今後はさらにこの研究を発展させる形で、フランシス・ハッチスン、アダム・スミスなどのスコットランド啓蒙思想についての分析・研究を掘り下げ、正義の問題に対しより包括的な研究を行ってゆく予定である。



技術室職員の研究活動紹介

技術室 技術長 山下 俊一

高専教育は、カリキュラムに実験実習を多く取り入れ、専門的知識と実践的な技術を有する創造力豊かな開発型技術者を養成する教育を実施しています。

本校技術室は、その実験実習や情報処理演習、卒業研究等の教育研究を支援する技術職員によって構成され、その業務は各学科で実施する工学系の実験実習について、より理解度が増す内容になるように実験装置や実験方法の検討を行い、その準備および実施を教員と共にを行っています。近年の高度化および多様化する技術に対して技術研修会への参加や資格取得に対しても積極的に取り組み、技術力の向上に努めています。また、研究活

動も活発に行っており、各種研究に積極的に関与しています。その一つに、研究費の外部資金を獲得するために、日本学術振興会科学研究費補助金の平成22年度奨励研究に対して技術室職員全員が各々の研究テーマで申請し、申請率100%としました。採択者が一人でも多くなることを期待しているところです。また、教員や企業との共同研究も活発に行っており、その成果を学会や技術研究会等で発表するなどして、高度な専門技術に対する技術力やプレゼンテーション能力の向上を図っています。これらにより、鹿児島高専が行う教育システムに技術室が貢献できるように今後も益々努力していきたいと思えます。

表1に過去5年間の奨励研究採択テーマ、表2に技術室職員が本年度の各学会や技術研究会等で発表した研究の一部を紹介します。

表1 科学研究補助金制度（奨励研究）に採択された研究テーマと研究概要

年度（採択者）	研 究 テ マ
平成16年度（木原 正人）	焼酎蒸留粕を主原料としたエコ資材作製過程で生じる廃液の性状と微生物分解特性
平成18年度（長山 昭夫）	桜島火山灰の養浜土砂としての利用価値を検証する基礎的研究
平成19年度（原田 正和）	最新のものづくりにおける異種材の共削り加工の最適条件を導き出す工作実習の検討
平成20年度（山下 俊一）	「木登りロボット」を題材とした設計技術教育用システムの開発
平成21年度（長山 昭夫）	Civil 3Dによる意匠設計の教材開発とe-Learningシステムの構築研究発表会名

表2 技術室職員の研究発表（平成21年度）

研究発表会名	研究テーマと発表者（○は登壇発表者）
平成20年度地域資源活用型研究開発事業 九州経済産業局（成果報告）	きのこ生産を核とした焼酎粕乾燥固形物の多用途再生技術の確立 ○山内正仁，山田真義，木原正人，他
粉体工学会2009年度春季研究発表会	積層粒子の崩壊に及ぼす底面摩擦の影響 ○山田孝行，池田英幸，塚本公秀，岡林 巧
日本工学教育協会 第57回年次大会	教員・技術員・学生と共同開発した，ものづくり教育のための実習（第2報） ―達成度試験に基づく，実習効果の確認― ○上野孝行，塚本公秀，山本桂一郎
2009年度精密工学会秋季大会学術講演会	工作機械構造の熱変形に関する研究（第4報） 河野良弘，山下俊一，○松尾征一郎，吉満真一，島名賢児 ㈱キラ・コーポレーション：櫻庭 肇
第62回電気関係学会九州支部連合大会	電力用変圧器を構成する各材料の超音波伝搬特性の基礎的検討 ○丸山幸輝，土橋大起，中村格，樫根健史，永田亮一 九工大：小迫雅裕・匹田政幸，日本AEパワシステムズ：小出英延
地盤工学会九州支部『地盤環境および防災における地域資源の活用に関するシンポジウム』	しらすのセメント安定処理工法を活用したパドック簡易舗装 ○長山昭夫，前野祐二，金子和久，岡部圭子，三原めぐみ，平瑞 樹
2009年度精密工学会九州支部 佐賀地方講演会	リーマを用いたノズルリング穴の精密加工に関する研究 ○原田正和，引地力男，油田功二 大同精密工業㈱：渡邊嘉清，宮城貴志
平成21年度 機器・分析技術研究会 実験・実習技術研究会in琉球	中学校との連携による気象ネットワークシステムの構築 ○荒巻勇輔，永田亮一



気骨ある卒業生たち 後編

元鹿児島高専ドイツ語担当教官 政所 利忠

機械工学科 第六回生・田中 純一 氏

三十年余も昔に遡る。空手部に所属していた田中君は語学も好きだった。卒業して川崎重工に入社している田中君から高専の教官研究室に電話をもらった。「会社を退職してドイツで勉強したいと思う。ハノーファー大学編入試験に必要な提出書類の推薦状と成績証明書を独文で作成して欲しい。自分は勤務のかたわら、神戸の日独協会でドイツ語講習に通い、実力もつけた」と。「君は川崎重工のジェット・エンジン開発部で頑張っているし、上役からも嘱望されているのだろう。ちゃんとした一流企業の会社をそんな簡単に辞めるもんじゃないよ。機械工学科の先生たちとも相談したが、会社を止めるな、惜しいよ」。そのまま数カ月が過ぎて筆者は二回目のドイツ在外研究のため、北ドイツのオルデンプルク大学に滞在していた。また田中君から今度はオルデンプルクへ電話がかかってきた。「自分の能力を考えた。サラリーマンとして一生を終えるのはもったいない、残念な気がする。推薦状と成績証明書は唐牛先生に英文で作っていただいた。会社の上役からも『君をドイツの大学に預けることにする、会社へはいつでも戻って来てよい』と言って頂いて退職の許可を貰った」と。結局、ハノーファー大学で編入試験を受けて、各国から二十九人の受験者があったが、彼一人が合格した。

オルデンプルク市からハノーファー市までは列車で一時間余。彼とは度々行き来したが、その熱心さと卓抜さには頭が下がった。研究はもちろん、同市の日本人会会長としても活躍、大学の空手部の顧問としても極めて真面目だった。熱心すぎてドイツ人学生たちから「指導がきびしすぎる。もっとお手柔らかに」と注文がくるほどだった。日常生活でも信用度が高く、当時のドイツ人女子学生・マルグレットが今の奥さんだ。三年後にディプロム（工学部を卒業してから受験できる国家試験）もさっさと合格した。

彼は国際間企業コンサルタントをめざしている。その為に数年間ドイツやスイスの重電メーカーに勤務、日本に帰国して、ヨーロッパの代表的重電メーカーであるシンドラ・エレベーター東京工場代表者、さらに車両カーペット、防音・遮音材料の製造販売では世界のトップクラスの技術持つH・P・ペルツァー・東京株の代表取締役など勤めた。昨年十月からはヨーロッパに生産拠点を持っている日系企業に対する営業支援強化の為にH・P・ペルツァードイツ本社の幹部として勤務している。

彼はヨーロッパと日本での豊富な経験のおかげで工

業・産業の世界市場に通じている。日・独・英の三ヶ国語を駆使でき、貿易上の取引、国際間特許申請・取得などの業務に秀でている。そのような人材は日本には一人か二人しかいないと推察される。

従来の彼は国際間産業市場コンサルタント事務所を神戸やフランクフルトの双方に開こうと計画してきた。でも、コンピューターの機能が開発された結果、いずれか一つの都市に開設すればよい事が分かった。一昨年秋に東京からマルガレット夫人の故郷・ドイツのクロッペンブルク市に二人の娘たち・MAI（舞）とCAREN（花恋）を連れて引っ越し、今の仕事はドルトムント市近くにある本社で果たしながら、将来の飛躍の為の基礎造りをしている。つまりクロッペンブルクに自分一人で事務所を開設し、本来の目的を達成したい。

筆者は昨年の夏にオルデンプルクに所用があったついでに彼の家に招待を受け、二泊させて頂いた。二階建ての豪邸には部屋が十室もあり、庭には大きな樅やフィヒテ等の樹木のほかにリンゴ、ナシ、クルミなどの果樹が育ち、芝生、菜園、一部に和風の庭も創られ、庭全体を取り巻く散歩用の小径もあった。その余裕ある暮らしに彼の高専時代やハノーファー大学時代を忍び感慨に耽った。彼は後輩たちに将来や現在の職業・仕事に関して手伝える事があればいつでも助言・協力を惜しまないと言っている。

土木工学科 第六回生・栗野 純孝 氏

世界一の巨大吊り橋を創った男はいまや国際的にその名を馳せている。1999年に開通した明石海峡大橋は、人類が建造した最大の吊り橋として、その高度技術は世界から高い評価を受けている。彼はこの橋梁構造設計の中心的役割を担って、小学館発行の「週刊ポスト」（メタルカラーの時代）の二度の特集記事や「橋梁新聞」の報道ですっかり有名になったが、JICA等による国際間でのその後の活躍も目覚ましい。

高専の橋梁研究室で実験的な研究であった3次元の応力解析に接したことが橋への興味に繋がって今日の彼がある。本州四国連絡橋公団に入社、設計部に配属され、上部工から下部工の各種の基準・要領類の調査業務や作成を担当した。土木工学の世界でも景観の時代が来ると知り、上司の許可を得て設計部の仕事を7年間も続けながら東京理科大学工学部二部建築学科に学ぶことができた。建築のデザインの勉強は、イメージを具体化するステップ、模型の作成、人のサイズを意識した設計等々、当時の土木の視点と異なり新鮮であった。

建築を学んで古い橋にも興味湧くようになった。最初の現場は鉄道の本四備讃線。鉄道や鉄道橋の施工法を学ぶと同時に、机上（設計）と現場の違いを知らされた。国鉄出身の上司からは「いま君は百年の技術の集大

成を学んでいるのだよ」と教わった。それから後は明石海峡大橋の工事開始前後という恵まれたタイミングで垂水工事事務所に着任、世界最長スパンの吊橋の基本設計・施工計画・塔の詳細設計という大仕事を担当出来た。塔が海面から300mの超高層であるため完成してからもかなり揺れることが分かったので、主塔の耐風性、制振ダンパー等の研究・開発を行なった。日本初、世界初の大規模で超綿密な調査の中核を務める責任と誇りを感じた。

彼の世界トップを行く橋梁建設の技術は海外からも要請され、平成3年からはアフリカのケニアにJICA橋梁工学の長期専門家として赴任した。ナイロビの2年間では橋の形態や途上国での橋づくりを研究、指導、吊り橋のロープ破断なども調査・報告、日本の無償資金協力につながった。平成15年からはフィリピンに長期専門家として滞在し、指導のかたわら同国の橋の歴史・技術を資料にまとめた。損傷している橋が多かったので、橋梁の荷重制限マニュアルを作成、これは同国の省令として採用された。吊り橋の鋼床版舗装の指導で中国にも行く機会があったが、中国には新橋のほかに古い立派な橋が多く、石材の加工精度や鋼材の繋ぎ構造を見て感銘も受けた。インド、マレーシア、インドネシア等へも赴任したが、現在は神戸で本州四国連絡高速道路株式会社の管理事業本部・保全事業部・橋梁保全課長代理を務めながら、米国や韓国等へ頻繁に指導・調査に出かけている。

機械工学科 第一回生・隈元正行 氏

鹿児島高専第一期生の入学試験は14.5倍の競争率で、宮崎県から100名以上が受験し、9名が合格できた。彼は市立大淀中学校の一学年650人の中では親友と1、2番を争う成績を保っていた。親友と共にラサール高校に進学したかった。でも当時、父親が事業に失敗して高校進学さえ危ぶまれるほどだった。日向学院の特待生制度、県内の中学卒業生一人だけが選ばれて給料を貰いながら学べる松下電気の高校、宮崎市内の県立高校という三つの選択に魅力を感じながら、結局は新しい高等教育機関として発足したばかりの国立・鹿児島高専を選んだ。

すばらしい環境だった。一年時は校舎がまだ工事中で、隼工業高校の一角にある仮校舎で学び、寮は日当山にあって一年生120人はスクールバスで通学した。先生方は本当に素晴らしい選り抜きの精鋭。どの授業も真剣で中身の濃い授業。寮生活も新鮮でよく勉強し、入浴は日当山温泉という贅沢さだった。

二年時から現在の敷地の新校舎と寮に移った。初代寮長として規約をつくり、吹奏楽部を立ち上げ、学生会副会長も務めた。英語、数学、物理が得意だった。家庭が経済的に不如意だったので奨学金をもらい、中学生のた

めに数学と英語の家庭教師をやり、道路工事のアルバイトもした。息抜きに映画もよく観た。天草旅行に出かけ、ヒッチハイクで四国をめぐり、四年時には会社実習をした。五年時に日新電機に就職が決まった。

重電メーカーの日新電気に四年間働き学び、ここでも寮長を務め、工業高校卒の新入社員の研修所で機構学を教えた。重電製品市場で90%のシェアを誇る職場で恵まれて働き楽しかったが、もっと広い世界に惹かれるようになった。未来への展望が開けていた英語圏のカナダやオーストラリアに目が向いた。日本の二十倍の国土面積、人口は日本の十分の一のオーストラリアに向けて十三日の船旅を行なった。白豪主義は影をひそめ、イギリス人街のみならず、中国人街、イタリア人街、ギリシア人街が賑わっていた。それでもこの国は人が足りない、技術者が足りない - と言われ、未来の面白い国だ、この国の大学に入学しようと思った。それにはこの国の高校を卒業している事という条件があった。オーストラリアの言葉を実際に体験してみて英語に言語学的に強い興味を持った。帰国して、南国生まれだったせいか、我が国の北に目が向いて、尊敬していた言語学者（安井稔）のいる東北学院大学に入学した。三年編入も可能だったが、徹底すべく一年から始めた。またアルバイトを数々やったが、暇があれば図書館で勉強。宮崎県の教員採用試験に30歳という年齢制限があったので大学院進学を諦め、郷里の伝統ある大宮高校に採用された。進学校で11年間楽しかった。英語の教授法改革にも熱意を燃やした。大学受験を目的にしたGrammar-Translation-Methodで学んだ英語は実社会に出てから役立ちにくい弊害があった。実社会で使える且つ大学入試にも対応できるOral-Methodの英語授業をめざし、研究し、実践し、学会発表を何度も行なった。数百人の英語教員たちに囲まれて研究授業も実施し、改善の効果には自信があった。この方法は用意周到な準備と教授能力が必要で同僚たちに必ずしも理解して貰えなかった。しかし自分の担任クラスをこの方法で徹底して鍛え上げ、クラスの44人全員を国立大学（東大、一橋、東工大、宮崎大、鹿児島大など）に合格させるという画期的成功をおさめた。この大宮高校開設以来の新記録を出した実証があつて彼の教授法改革は校長にも、広く同僚たちにも認められ、英語担当全教官が実施するようになった。

このような実績を積んだこともあつて宮崎県教育委員会主事として教育行政に携わるようになり、教育次長を務め、さらに大宮高校に校長として戻った。この間の、あるいは前後しての教育活動は驚くほど広範囲に亘り、文部省、国立教育政策研究所、宮崎県等の主催する研究会委員や委員会会長、海外調査派遣団員、宮崎県高校の美術、書道、音楽、図書館、演劇等の各研究会長、校長会会長、宮崎大学評価委員など20余の役職を経ている。

校長在職時から公・私立の大学から教授就任の誘いがあったが、独創的なアイデアを生かすべく宮崎国際大学の教授に着任、理事に選ばれ、学長に推薦された。現在は外国人数員が八割を占めるユニークな同大学国際教養学部でのリベラル・アーツを重点にクリティカル・シンキングを養成する教育に取り組みながら、卒業生の就職率92%を100%に高めるよう努力中である。

電気工学科 第三回生・高岡 修 氏

鹿児島高専に六年在学して卒業しなかった。彼は異色中の偉才、今やわが国現代詩壇の旗手をつとめると言っても過言ではない。高専三年生のころの彼は筆者の教官室に時々やって来て、本棚のドイツ文学作品を覗き見しながら「将来はカフカのような作品を書く」と言った。

「紅顔の可愛い少年が夢を見ている。電気工学専攻なのに変わった奴」と思った。四年生になると筆者担当のドイツ語の授業をサボり始めた。なにやら校内の文芸誌『きざはし』に熱中していた。やがて角川出版社の雑誌『詩学』に彼の詩・「風の彫像」が掲載された。その冒頭に「昨日の夕暮れにも堪りかねて石をひとつずつ丹念に投げあげていたのだが 時々落ちてこぬ石があったー」とあるのを読んで「こりゃ一本物だ」と軽い驚きを覚えた。ドイツ語の授業には殆ど出てこなくなっていた。学年末の試験でほぼ白紙の答案を提出した。単位を認めなかった事などが原因で彼は留年した。五年の時のドイツ語担当は鹿児島大学の荒川穰教授であったが、高岡はただ一度だけ授業に出た。卒業を控えた最後の試験も白紙。卒業の判定会議を前にして担任の山元道也教授が荒川教授との交渉に足を運んでくださったが当然単位は認めて頂けなかった。結局、専門の電気工学や語学には興味を示さず、もっぱら文学作品を読み、詩の創作に耽っていたらしい。国語担当の野元遂志雄教授が現代詩に造詣が深く、高岡はこの先生に徹底して詩を学び、近代詩から脱皮した現代詩に親しんでいった。

一旦は電気工学のエンジニアとして就職をしたが、在学中に野元教授に導かれ19歳で俳誌「形象」の最年少同人になっていた彼は、自ら辞して本格的に詩の道に進んだ。先達の作品を読み、当時刊行され始めた思潮社の「現代詩文庫」を次々とむさぼり読んだ。前原東作の創刊していた「形象」では編集部を受け入れられ、詩の生涯の師と仰ぐ岩尾美義を知り、詩精神を鍛えられ、大変革を経験する。東作の死後は高岡が主幹となり同誌の発行を現在も続けている。詩魂に己をゆだねる事は同時に苦難と挫折に我が身と家族をもゆだねる事であった。幾つか職業を替えながら現在の出版社経営に辿り着いたが、これとても途中で破綻に近い浮沈の憂き目を経験している。これまでの自己を精算して区切りをつけるべく昨年の初夏には墓地と墓石を定め、生前葬を行なった。

彼はすでに十冊余の作品を主に思潮社から世に送りだしているが、中でも「高岡修詩集・現代詩文庫190」はかつて野元教授に導かれてむさぼり読んだ権威と伝統の書・バイブルに遂に自らの作品を加え得たことになる。彼岸にあった夢が此岸の現実になった。40年の昔、彼にドイツ語の単位を出してやれなかった老教師は彼の作品「高岡修全詩集1969-2003」を献呈して貰った返事に「言葉の機能や意味を考え、開拓するという意味では、私にとっては近代哲学の祖・デカルトのコギトーに相当する内容を秘めた作品です」と書き送り、筆者の文法中心でGrammar-Translation-Methodのドイツ語授業は彼には無味乾燥であつたろうと昔を振り返った。

筆者は、彼が思潮社から出版している詩集「蛇」や「犀」にある基調は西欧古典の文学思潮や詩精神に通ずるところがあると認識し、これらの詩集からの抜粋を昨春からドイツ語に訳す事に取り組んでいる。昨夏ドイツのオルデンブルク市で彼の詩の朗読会を催したが極めて好評であった。西欧の詩や文学作品を永らく一方的に輸入してきた我が国であったがそろそろ逆に輸出してよいと思っている。彼の作品はそのレベルにある。

作家・藤沢 周は高岡の詩を「未生の言語の戦慄きを、遙か始原へと溯及して掬い取る詩人がここにいる。高岡修の過激なほど繊細な掌の中に、孵化寸前の新しい世界が震えているのだ。彼はそこに胚胎する光を飼育し、あるいは、生まれた言葉による「死後の柔力」にさえも視線を届かせる。つまり、これは見たこともないもう一つの創世記でもあるのだ」と評している。これまでに南日本文学賞、南日本出版文化賞、土井晩翠章、現代俳句評論賞など受賞しているが、高岡の羽ばたきは始まったばかり。彼は「大学進学コースでなく高専に入学して6年も在学したからこそ今の自分がある。これでよかった」と語っている。

「検証を終わって」高専卒業生の殆どが生産の現場に参加し、実力を評価され、企業内で順調にエスカレーターを登り、一部は嘱望されてそのまま母校に残り研究・教育に携わっている。彼等こそが高専の制度発足の本旨にそっており、卒業生の主流である。一方、転身して研究・開発・教育に携わったり、起業したりしている人たちもいる。筆者は主として転身組にみられる特徴を前編と後編で紹介してきた。彼等が己の置かれた状況に対処するに際し、共通して備えている大胆さと忍耐力は何故かを考えてきた。

昭和37年度に新しく発足した高専制度のもとに育った彼等には、既存の工業系の高校や大学に比較して後発組であるが故に、伝統に安住したコースだけにとらわれない、新しい世代のエンジニアを目差そうという姿勢が見られる。学生たちにも教官たちにもエンジニアとしての

基礎力養成に力点を置くという謙虚さがあって、と筆者は経験から推察できる。

以上のような謙虚の姿勢が在学生・卒業生たちの心意気を支えてきた結果として、エンジニアとは何かという職業の本質を考える意識が生じた。エンジニア・ENGINEERの本来の意味はINGENIEUR（フランス語、ドイツ語）に由来し、この語はさらにINGENIUM（ラテン語で創造力、独創的才能の意味）の語幹に-EUR（—の人の意味）という語尾が付いた合成語である。つまりエンジニア（INGENIEUR）とは、創造力、独創の才を備えた人、を意味する。この創造・独創の才能は中世から近代へ、近代から現代への歴史の経過の中で国家を守り・維持するために重要であった戦争の武器の開発や生産に利用されることが多かった。その為にTECHNIK・TECHNIQUE（人間が自然を利用する為の方法・手段。技術）という言葉と密接に結び付いて今日に至った。高専の卒業生たちの現実に対処している姿勢を見ているとエンジニアの原初の意味、つまり現実の世を大胆に生き、忍耐をもって進む術を身に付けている。技術者としてだけでなく、人生に自立的姿勢で立ち向かえる人、という意味のエンジニアである。

追記

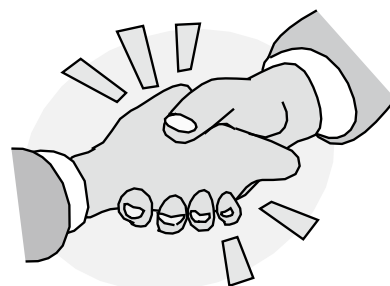
〔高専卒業後に転身あるいは進学して独特の領域で働いたり、研究・開発に従事している人は多数いるが、偶然に筆者と現在も交流している以下の四人も別の機会にぜひ紹介致したい。今回は与えられた紙数に制限があり割愛する〕

機械工学科第二回生・里中 忍氏（高専卒業後、熊本大学工学部、大阪大学大学院卒、工学博士、熊大工学部教授、同大学工学部副学部長。切削加工、溶接・接合、超音波や赤外線利用の非破壊検査が専門）

土木工学科第三回生・森山克美氏（高専卒業後、宮崎大学、九州大学大学院卒、工学博士、国土交通省河川局勤務後、九州共立大学工学部教授。水質汚染、河川浄化が専門）

土木工学科第六回生・木原 正人氏（千代田化工で中近東の国々で石油プラント建設に従事、現地の下請け企業を指導した。現在は北九州市で不動産鑑定士事務所を開設中）

土木工学科第六回生・上潟口徳次郎氏（高専卒業後、オハイオ州立大学卒、藤田工業入社、イラン、イラクで国際道路建設に従事。外務省試験に合格後、国際公務員、国際協力事業団員として中近東や東南アジア各国で都市開発、医療開発、エイズ対策を指導）





贈る言葉

電気電子工学科 5 年担任 須田 隆夫

活字離れと言われ、文章を読まなくなった若者が多くなり、ネットで動画が氾濫している今時に、このような紙面で、果たしてこちらの思いが伝わるのか疑問である。そこで「贈る言葉」の趣旨とは異なるが、私が本校にて 4 度目に学生を送り出した時代がどのようであったかを少し書いておいて、後々の思い出にしようと思う。

君たちが本校最後の学年を送った 2009 年は、世界的にも日本においても変化の年であった。1 月に米国で初の黒人大統領就任。続いて我が国においても政権交代が起きた。その前年には米国の所謂リーマンショックで一気に景気は後退。求人数は前年の「団塊世代の退職求人バブル」から 3 割以上減であったが、それでも高専の就職は好調であった。不況の影響は、電気電子工学科では進学者の減少となって現れ、こちらはちょっと寂しい。

米国を中心とした金融資本主義の破綻は、「真面目にものづくり」を教育する者としては「ざまあみろ」と言いたかったが、米国の片棒を担いだ日本も、ものづくりで危うい状況となっている。例えば韓国のサムスン電子の 2009 年 7-9 月期の営業利益は、ソニーや日立などの日本の大手 9 社の合計の 2 倍以上で、年間営業利益は 1 兆円に届くらい。日本の電機製造業上位数社が束になってもかなわない。かつては、日本が世界市場を席卷した半導体、液晶パネル等で完全に抜き去られてしまった。（ついでに言うと、あのトヨタ自動車もかつて 2 兆円超えた営業利益が、09 年は 1 兆円割れの予想である。）これはほんの 1 例であるが、これから技術に係って生きていく君たちは知っていただろうか。

さて、ここからは少しだけ「伝えたいこと」を述べて終わりにしよう。

「高専で教わったことは役に立たない」と言った卒業生がいたが、そのとおりである。（その卒業生は違う意味で言ったのかもしれないが、）教えられ覚えたことは役に立たない。自分で「勉強した」ことだけが役にたつのである。勉強とは、自分で考え、悩み、発見をしていくことである。

「勉強は嫌い」という人が多い。しかし、知的好奇心が人間を人間たらしめているのであり、何人も知らないことを知りたがる。「知りたい」気持ちが「勉強」する原動力であることを忘れず、是非ともその手で未来を切り拓いて行ってもらいたい。

卒業するにあたって

機械工学科 5 年 井上 豪

主な行事もほとんど終了し、後残すは期末試験に卒業を残すのみとなりました。私が、学生でいられるのも後わずかとなりました。この 5 年間を振り返って私は良かったと思う反面まだ学生で居たかったと感じています。

5 年前、入学したばかりの私は真面目の前に下品な言葉がつくほど生真面目で社交的ではありませんでした。その為、クラスに馴染めなく一人でいることが多かったように思います。

そんな風に過ごしてきた私ですが、そんな私に転機が訪れたのは、1 年の後期が始まってすぐのことでした。いつものように一人で過ごしていた私は、何もすることがなかったので勉強をしていたところに、珍しく遊びに誘われました。そのときは邪魔された気持ちで参加したのですが、その後は自分の趣味に合っていた為か、すぐに意気投合して騒いでいました。それまで自分は観客席から見ていた感覚でクラスを見ていたのが、一変した気分でした。

このことからこれまでの自分を恥、自分を変えることを考えて、まず部活を変えたりして環境を変えてみたり、積極的に人と話そうとしたりして話下手を直そうとしました。最近では角も取れ話下手もある程度改善されましたが、まだまだ人見知りをするし、話をするのも苦手です。

そんな中で高専に来ての一番思い出に残っているのは、4 年のときです。ただ単に最近のことだからではなく、一番充実した時期であり楽しいと感じた学年だからです。

まず一つ目に、高専祭で櫓隊長をやったことです。始めの頃は絵の著作権が取れなく 10 日ぐらい作業が滞るというアクシデントがあり本番に間に合うかわからない状況でしたが、期日までに間に合い結果、2 位になれたことは奇跡ではないかというほどでした。これも機械科の団結力のおかげかなと思います（後、自分の頑張りのおかげであってほしい…）。

もう一つは、やっぱり工場見学だと思います。当初、九州内の見学旅行だと聞き落胆したとともになぜ機械科だけと不満だらけで興味もわきませんでした。でも始めてみれば大きなタービンや機械に興味をそそられ、九州でも楽しめた感じでした（でもやっぱり違うものが見たかったかも）。

これ以外にも高専であった楽しかったこと、辛かったこと、好かったこと、嫌だったこといろいろありましたが、最終的にはやはりまだやり足りない、あと数年高専で過ごしたいです。

最後に、伝えたいことは、

『考えるな！感じろ！』

です。よく大人から『考えて行動しろ』といわれますが時には感じるままに行動してもいいかと思います（まあ常識の範囲内ですけど…）。

卒業、そして出発

電気電子工学科5年 辻 拓真

これまでの学生生活において鹿児島高専で過ごした5年間という時間は、小学校で過ごした6年間に次ぐ長さです。わずかに1年しか変わらないものの、この5年間はあっという間に過ぎ去っていき、時の流れの速さを痛感しています。

鹿児島高専に入学する前は、生まれて初めて親元を離れて寮生活をする事への不安と、今までとは全く違った学生生活への希望とが入り交じり、とても複雑な心境だった事を覚えています。

1年次は、まだ右も左もわからぬまま流れに身を任せているような状態でしたが、たくさんの仲間に出会って夜な夜な語り合っていました。また、応援団に初めて出会ったのもこの年でした。数学系科目や専門科目では早い段階からハイレベルな内容を学ぶため、数学に苦手意識のあった当時の私にはついて行くのがやっとでした。

2, 3年次は、高専生活にも慣れてきたもののクラスメイトの入れ替わりの激しい時期でもありました。

4年次は、それまで協調性の欠片も無かったクラスが、高専祭という1つの目標に向けて初めて団結することができた年でした。優勝は逃したものの、あの数ヶ月間は貴重な経験であり今でも鮮明に覚えています。また、この頃は進路について悩み、進学と就職で揺れていた時期でしたが、夏休みに企業のインターンシップに参加したことがきっかけで「就職」という結論に至りました。

5年へ進級するとともに100年に一度の不況と言われている中での就職活動が始まり、不安な毎日でしたが無事に第1志望の企業からの内定を頂くことができました。就職が決まると、卒業研究に追われる毎日が始まり、まさに今も原稿執筆と平行して研究を進行しているような状態です。

振り返ってみると、本当に充実した5年間を過ごしてきたように思います。特に4, 5年次は時間がいくらあっても足りないと感じるほどでした。この思い出は一生忘れないものであり、今では5年前に鹿児島高専を選んで正解だったと思っています。

今、「就職」という選択が正解かどうか。この問題の答えは现阶段では誰にも出せません。しかし、今の自分が5年前に高専を選んだことを後悔していないように、5年後10年後の自分も決して後悔はしていないはずだと信じています。

卒業後は、鹿児島を出て関東の企業に就職することが決まっています。今の心境は、まさに鹿児島高専に入学する前に感じていたものそのものです。

私は鹿児島の出身であることを、そして鹿児島高専を卒業したことを誇りに、「学習・教育目標」にもある『相手の立場に立つてものを考える技術者』に1日でも早くなれるよう頑張りたいと思います。

最後になりましたが、これまでご指導頂いた先生方や楽しい時間をくれた友人たち、支えてくれた家族には心から感謝しています。本当にありがとうございました。

高専生活を振り返って

電子制御工学科5年 松浦 将史

私はエンジニアになるという夢を胸に5年前、この鹿児島高専に入学しました。地元である鹿屋から吐きそうなくらい様々な不安を抱えて入学式に向かった5年前の春は、今でも鮮明に覚えています。あれから月日は流れて、良い意味でも悪い意味でも高専に慣れてしまった私は、今年、卒業を迎えようとしています。

高専へ入学してからこの5年間、たくさんのことを知り、たくさんのことを学びました。初めは、未知の領域だった専門科目も徐々に知識を蓄えるうちに良く理解することができ、それが喜びとして実感できるようになりました。日常にあるコンピュータや電化製品などの仕組みも大まかではありますが、知ることができました。

また、高専ではたくさんのことを学ぶと同時に、様々な行事を通してクラスメイトとのたくさんの思い出を作ることができました。中でも体育祭での応援団は一生忘れることのできない大切な思い出です。4年生の春、応援団は新しい演舞の型を作ることからスタートを切りました。新型作りは困難を極め、特に前年度は電子制御工学科が応援団で優勝していることもあって2連覇というプレッシャーが重くのしかかっていました。しかし、妥協することなく意見を出し合った結果、自分達の納得のいく演舞を完成することができました。そして夏休みが明け、応援団全体の練習が始まりました。本番までの1カ月は苦難や困難の連続で、その度に仲間と話し合い、ひたすら前に進み続けました。そうして迎えた体育祭本番、私は演舞の後半部分で少しミスをしてしまいましたが、それでもひたすら全力で演技続け、最高の演舞にすることができました。結果も目標としていた応援団優勝を成し遂げることができ、喜びのあまり涙が止まりませんでした。

高専での5年間で、私は非常に充実した日々を送ることができました。入学したばかりの自分と比べ、人間として大きく成長することができました。これも周囲の支えがあってこそだと思います。今まで支えてくれた人たちには感謝の言葉しかありません。編入先の大学では、鹿児島高専卒業生としての誇りを持ち、この学校で学んだこと、経験したことを生かして、より一層、自分の夢に向かい努力していきたいです。

卒業にあたって

情報工学科 5年 徳留 啓介

鹿児島高専 5年間も終わりに近づき特に今思うことは、月並みですが本当にあっという間だったということです。しかし、それでも入学当時に昨日のように思い出することはできません。なぜならそれほどに内容の詰まった5年間だったからです。

期待と不安を胸に秘めながら始まった1年生。

専門的な勉強についての不安は大きいものでしたが、一般科目の割合が多く専門では基礎知識を学ぶだけだったので何とか付いて行けていたように思います。また、総務に任命されクラスをまとめるよう努力しました。済し崩し的に5年間務めることになったのですがとても貴重な経験だったと思っています。

段々と慣れてきた2年生。

このころになると高専での過ごし方もある程度わかり2年目ながらメリハリのある生活を送っていた気がします。

高専らしくなって来た3年生。

専門の勉強が本格的になるのに加えて実験等も始まり、前2年とは比べ物にならないほど大変でした。苦しかったはずなのに思い返せば楽しかったといえるのは友人達と切磋琢磨しながら頑張れたからです。

一瞬だった4年生。

高専祭、工場見学等、引切り無しに行事がありずつと動いていたといっても過言では無いくらい充実した1年間でした。語り出すと止まらなくなりそうなので割愛しますが、クラスの皆で盛り上げた行事の数々は生涯忘れることのできない思い出として胸に刻まれています。

最後の5年生。

春の就職活動に始まり高専での学習もまとめに入りました。終わりよければ全て良し…となるかはわかりませんが卒業に向けて精一杯頑張っています。

そして――、気づけばもう来年からは社会人として新たなスタートを切ることになります。ここまで無事進んでこれたのも支えてくれた両親を始め先生方や5年間共に歩んだクラスメイトのおかげだと思います。素晴らしい出会いに感謝するとともに高専に入学し情報工学科を選んで良かったと心から思います。助けてもらった全ての人にこの場を借りてお礼を言わせてください。本当にありがとうございました。

僕たち私たちは卒業します!!

土木工学科 5年 八木 聡

鹿児島高専に入学してからから五年、振り返ってみると長いようで短かった五年間だった。牛乳の消費期限のような早さですね。

まず高専に入って思ったことは「ちょっとこの学校、校風が自由すぎないか？」ということだった。入る前から「高専は自由な校風」と聞いていたが、自分の予想以上に自由でした。しかし、この自由な校風のためかこの五年間の高専生活は、のびのびと自由に過ごせ、他では学べない様々な事を学び得ることができました。ここでの体験は良くも悪くも、今後の自分に大きく影響してくると思います。

私がこの高専生活の中での思い出は数え切れませんが、やはり一番の思い出では四年時の高専祭です。この年は二、三年時で携わっていた、応援団をせず、櫓絵の制作に携わりました。正直櫓絵の制作は思っていた以上に時間をとられ毎日遅くまで作業をしていましたが、応援団の練習が終わると応援団の人たちも手伝ってくれてみんな一丸となって高専祭の準備を進めていきました。そのためかこの期間はみんな疲れがたまっているのかぐったりとした表情で授業を受けたりしていて、私も気づくと授業後にタイムスリップしていたことが何度もありました。結果は応援団も櫓も優勝はできませんでしたが、それまでの時間は高専生活の中で一番充実したものでした。

高専に入りたての頃は不安がいっぱいの私でしたが、一年時は、寮生活で、入寮の日部屋に行くと同室が先輩で、先輩は今まで私が関わってきた事のない変わった人であり最初は戸惑いましたが、その先輩のアドヴァイス等のおかげで、「ちょっと五年間ちゃんとやっていける気がする！」と妙な自信がわいてきました。事実、この五年間あっという間に過ぎていき、もう卒業と成りました。

私は就職せず専攻科に進学します。就職しようかなと思った時期もあったのですが、まだ学生のうちにやりたいこと学びたいことがあったため、進学の道を選びましたが、みんな就職していくと思うと少し寂しいものですね。しかし、二年も立つと就職していく人たちはそれぞれの舞台上で活躍していると思うので、私も彼らに恥じないように勉強やその他の事をいろいろ吸収していくつもりです。

まだ、学生を続けることになりますが、本科卒業ということで、これまで支えてくださった先生、先輩、後輩や家族、そして、友人に感謝しております。この五年間本当にありがとうございました。

専攻科修了にあたって

機械・電子システム工学専攻 2 年 芝 健一

専攻科に入って印象に残った出来事ランキング

8 位 英語でのミーティング&飲み会

インターンシップで企業に 2 週間お世話になった。ここでは朝のミーティング、勉強会、プレゼンテーションが英語だった。向かいの席はインド人、おまけに飲み会まで英語だった。ちょっと酔ったら結構喋れた。

7 位 環境創造工学という授業

環境創造工学でグループに分かれ、自分たちで試行錯誤して、福祉に役立つ装置を提案した。自分は尿検知センサーをグループのみんなに押し、みんなでひたすらおしっこを我慢して身体に電流を流し、身体の抵抗を計測した…結局先生に危険なことをすると注意された。

6 位 インターンシップ 3 日目の寝坊

電車の中で泣きそうになった

5 位 英会話教室の美人先生

英会話教室の美人先生。外国に帰ってしまった。泣きそうになった

4 位 専攻科生で登山部を結成

専攻科生で下村君を中心に登山部を結成して、2 回登山をした。釜付隊長のもと、登山口でビリーズブートキャンプを行った。

3 位 研究

自分はあまり研究を頑張ったほうではない。専攻科生のほかの人にいつもお前そんなことじゃ駄目だよと言われたが、なんとか頑張った。一人でやる研究は厳しいし、ためになった。

2 位 授業

専攻科の授業は超少人数でなんでも質問でき、とても楽しかった。1 年時はほぼ毎週プレゼンテーションがあり、パワポ地獄、2 年時は基本 5 人以下の授業で寝てられないし、寝たくなかった。

1 位 就職内定

最終面接での最後の質問が「この仕事は結婚できないけどいいか？（海外出張が多いため）」だった。「…はい」と答え、即内定を頂いた。

その他…

- ・学校を休んでいった健康診断
- ・政権交代
- ・内定者会の夜の 3 次会 など

以上専攻科に入って印象に残った出来事でした。私は発展途上国の発展に貢献する技術者になるという夢を 5 年生の時から持っており、専攻科に入り途上国のエネルギー開発のプラントを多く手掛ける企業にインターンさせていただき、内定をいただくことができました。専攻

科は環境の変化がないので就職活動をする際、じっくり検討することができ、自分の自由な時間を有意義に過ごすことが出来ました。授業や研究も常に学生を大切にしてくださり、充実したものとなりました。しかし、この 2 年間は自由な時間が増えた分、日々怠惰な自分、弱い自分との戦いでした。日々勝負だと感じました。まだまだ未熟すぎる自分ですが、弱い自分と真正面から戦い、日々夢に向かって成長していきたいです。いつも支えて下さった先生方、専攻科のみんな、両親にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

専攻科を修了するに当たり

電気情報システム工学専攻 2 年 町野 真吾

私が専攻科に入学した平成 20 年度の電気情報システム専攻科生は 5 人で、前年度の先輩方が 10 名ぐらい在学されていたことを考えると少し寂しくなるかもしれないという気持ちでスタートを切りました。しかし、専攻の垣根を越えて交流が始まり、1 つのクラスのようになり、その寂しさは杞憂となりました。さらに有志の方々が様々なイベントを発起してくださり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

1 年目は歓迎会、開聞岳登山、2 年目は新専攻科 1 年生を交えた歓迎会、高千穂峰登山、忘年会などがあり、特に登山の際は全専攻で山岳同好会の T シャツをそろえたり、しおりを用意したりと本格的でした。歓迎会で飲みすぎて鍋に嘔吐する人、奇声を上げつつ開聞岳を猛スピードで下る 1 集団、険しい高千穂峰を皆の先頭に立ち悠々と登る人など皆さんと伴に過ごした事は高専生活最後の輝ける思い出となりました。

私は専攻科生となってから勉強に対する視点を変えさせられる出来事がありました。1 つ目は指導教員に特別研究の不理解を指摘されたことで、2 つ目は 1 年次の夏季休業中にインターンシップに参加したことでした。本科時代も含めてこの 2 つの出来事に当たるまでは場当たりなテスト対策に奔走するのみであった勉強に対する姿勢を改め、「勉強に当たる際に学ぶ分野の持つ体系を意識しなければならない」ことに気がきました。これにより自分の学んだ各分野に対する理解は、本科時代よりも少しだけましになった気がします。情けない事ですが本科時代から何故これを意識して勉強してこなかったのか、今、大いに悔い、そのツケを払い、復習を行っています。

専攻科で最も多くの学習時間を占める特別研究は、指

導教員指導の下、日々の研究活動の他に学内の研究発表、自らが所属する学会発表、学位取得のための論文執筆とその小論文試験などがあり、満足な結果が出せるよう、それぞれ全力で取り組みました。中でも、学会発表は他の高専や大学、企業などに所属している方々の前で発表をするので、特に緊張しました。

最後に、電気電子工学科在学時代から専攻科修了までと7年の長きにわたり教鞭をとって頂いた先生方、共に修了する専攻科生の友達に謝辞を述べたいと思います。皆さん、本当にありがとうございました。

専攻科を修了するにあたって

土木工学専攻2年 吉田 誠

この原稿は学位取得の為の小論文試験を終えて、一段落した年の瀬に執筆しております。

私にとって専攻科での2年間の学生生活は非常に密度の濃いものでした。1,000字程度ではおさめきれないのですが、その一部を紹介したいと思います。

私は、特別研究において土木工学専攻都市計画研究室で研究を進めております。特別研究は専攻科の科目の中でも大半の時間を占めており重要な科目です。研究は過疎消滅集落に関する内容を進めておりますが、作業する中で様々な困難がありました。特に困難に感じた事は、一つの事を述べる為に沢山の要素を挙げる事でした。様々な角度から物事を見て判断し、論理づけて、結論を述べる。一見、簡単そうに感じますが、実際は非常に頭を悩まして考えなければなりませんでした。研究が行き詰まる度に、指導教員の内田先生から熱心に指導してもらい、それを繰り返す中で多少は成長する事が出来ました。本科時の卒業研究を含めると研究期間は3年目なのですが、まだまだ未熟で現在も先生から指導を受ける日々が続いております。残りの期間でより成長できるように、日々努力していきたいと思います。

また、授業において本科時に比べ、より高度なものをうける事で教養の幅が広がりました。

特に英語や環境関連の科目で、ディベートやプレゼンを行う事で自分の意見を述べる機会が増えました。これは、就職してから非常に役立っていくと思います。

一年次の夏季休暇中には、特別実習としてカナダのBCITという工科大学に一カ月間短期留学へ行かせていただきました。同大学の学生は、非常に勉強熱心で学費を自己負担するなど自立性を備えておりました。その姿を見て非常に感銘を受けると同時に同世代としての危機

感も感じました。また、ホームステイを通し他国の人と文化などについてのコミュニケーションをはかる事で、英語力の向上にも繋がりました。このカナダの生活は、自分の人生の中で非常に貴重な経験となったと思います。

専攻科では本科時には交流の無かった他学科の学生とも親しくなる事もできました。例年、専攻科では他学科の学生との交流はあまり見られませんが、私達の学年は授業などを通して親交を深め、専攻科Tシャツの作成や登山など充実した日々を送る事ができました。今後も卒業迄に、共に励ましあいながら成長していきたいです。

専攻科修了後は、土木関連の計画コンサルタントに就職予定です。都市計画関連の会社という事で、研究室で学んできた事を生かせる職場なので、残された研究期間もより力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、指導教員として叱咤激励で熱心に指導してくださった内田先生、他の諸先生方、高専関係者の方々、また専攻科の同期生の皆、研究室の特別研究生や卒業研究生に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。



卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職進学一覧

＜機械工学科＞

IHIプラント建設株式会社
JFEスチール株式会社 (2名)
大阪ガス株式会社 (2名)
株式会社コスモテック
株式会社三晃空調
株式会社シマノ
株式会社日立ビルシステム
株式会社吉野工業所
株式会社JAL航空機整備東京
関西電力株式会社
九州電力株式会社
シチズンセイミツ鹿児島株式会社
昭和電工株式会社
ダイキン工業株式会社
大同精密工業株式会社
濱田重工株式会社
久光製薬株式会社
富士電機システムズ株式会社
三菱重工業株式会社 (5名)
森永製菓株式会社
屋久島電工株式会社
株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド
株式会社ヤマサキ
大和製罐株式会社
豊橋技術科学大学
九州工業大学
熊本大学 (3名)
第一工業大学
鹿児島高専専攻科 (6名)

＜電気電子工学科＞

鹿児島空港エンジニアリング株式会社
鹿児島市役所
株式会社日立プラントテクノロジー
カルビー株式会社
関西電力株式会社
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社 (2名)
全農サイロ株式会社
中部電力株式会社
デンソーテクノ株式会社
東芝ITサービス株式会社
東芝プラントシステム株式会社
野里電気工業株式会社
パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社
株式会社日立ビルシステム
富士通株式会社
フジテック株式会社
富士古河E&C株式会社
本田技研工業株式会社
メタウォーター株式会社 (2名)
株式会社日本コンピュータコンサルタント
九州電力株式会社 (3名)
東京工業大学
九州工業大学
熊本大学
鹿児島大学 (3名)
鹿児島高専専攻科 (7名)

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職進学一覧

<電子制御工学科>

NTTコミュニケーションズ株式会社
オムロンフィールドエンジニアリング九州株式会社
株式会社ATOX
株式会社カコイグループ
株式会社テクノ21グループ
株式会社トヨタ車体研究所
株式会社日立ビルシステム
株式会社飛鳥電気
株式会社富士通アドバンスソリューションズ（2名）
株式会社富士通エフサス
ダイダン株式会社
テクノ空調株式会社
ミヤマ工業株式会社
メタウォーター株式会社（3名）
旭化成テクノシステム株式会社
関西電力株式会社（2名）
三菱重工業株式会社
三菱電機ビルテクノサービス株式会社
住友化学株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東芝プラントシステム株式会社
南西糖業株式会社
大阪サニタニー金属工業協同組合
長岡技術科学大学
豊橋技術科学大学
九州工業大学（5名）
鹿児島高専専攻科（8名）

<情報工学科>

株式会社CRCシステムズ
株式会社エス・テー・ラボ
株式会社ケイ・シー・ティ
株式会社ソルクシーズ
株式会社日立メディコ
株式会社富士通アドバンスソリューションズ（2名）
株式会社富士通ミッションクリティカルシステムズ
株式会社富士通鹿児島インフォネット
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社（2名）
デンソーテクノ株式会社
東海旅客鉄道株式会社
独立行政法人国立印刷局（2名）
日本放送協会
パナソニックITS株式会社
パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社
メルコ・パワー・システムズ株式会社
安川情報システム株式会社
関西電力株式会社（2名）
京セラコミュニケーションシステム株式会社
大阪ガス株式会社
東芝ITサービス株式会社
日本空港テクノ株式会社
富士通株式会社
（進学）豊橋技術科学大学
（進学）九州工業大学（2名）
（進学）熊本大学
（進学）鹿児島大学（3名）
（進学）鹿児島高専専攻科（4名）

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職進学一覧

＜土木工学科＞

大阪ガス株式会社	(3名)
九州旅客鉄道株式会社	
九州電力株式会社	
九鉄株式会社	
三軌建設株式会社	
ショーボンド建設株式会社	
株式会社シティーアイランドプランニング	
株式会社竹中土木	
東京ガス株式会社	
東海旅客鉄道株式会社	(2名)
東洋建設株式会社	
日鉄パイプライン株式会社	
西日本旅客鉄道株式会社	(2名)
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社	
株式会社NIPPOコーポレーション	
株式会社日本貨物鉄道	
パシコン技術管理株式会社	
三菱重工株式会社	(2名)
三菱地所藤和コミュニティ株式会社	
株式会社富士ピーエス	
株式会社ヤマサキ	
株式会社横河ホールディングス	
ライト工業株式会社	
千葉大学	
長岡技術科学大学	
愛媛大学	
九州大学	
鹿児島高専専攻科	(9名)

＜機械・電子システム工学専攻＞

東京電力株式会社	
東洋エンジニアリング株式会社	
本田技研工業株式会社	
三菱重工業株式会社	
ミヤマ工業株式会社	
ミヤマ精工株式会社	
豊橋技術科学大学	
名古屋大学	
九州大学	(2名)
九州工業大学	

＜電子情報システム工学専攻＞

北陸先端科学技術大学院大学	
九州工業大学	(2名)
鹿児島大学	

＜土木工学専攻＞

浅野環境ソリューション株式会社	
九州旅客鉄道株式会社	
東海旅客鉄道株式会社	
福岡土地区画整理株式会社	

感謝とお礼

一般教育科理系 山崎 亨

昭和44年3月に大学を卒業して間もなく鹿児島高専体育教員として奉職して41年がたち、この3月定年を迎えることとなりました。

高校の教員を夢見ていた私にとって、5年間一環教育の鹿児島高専で教職生活を送ることになったことは、個性的で、独自性溢れる豊かな教員人生につながったような気がいたします。

15歳から20歳の多情多感な若者が、工業立国日本を背負う立派な技術者にならんとし、勉学に部活動等に努力している鹿児島高専のキャンパスは、若い学生と夢を共有しながらの教員生活を送ることができた最高の職場でもありました。

全寮制の基での担任、当直、教務・学生・寮務主事補等の公務業務や日々の体育授業で若者達と織りなす学校生活は実に楽しく活気に満ちたものでありました。

優秀な学生や素晴らしい職場の同僚にも恵まれ、多くの方々に支えられ助けられながら、何とか定年という人生の節目を迎えることができ、若干の寂しさは禁じ得ませんが、皆様に感謝しながら41年間という教職生活に一つの区切りをつけられることに衷心より感謝いたしております。

体育教員でサッカーを専門としていた私にとっては、鹿児島高専のシンボルである「覇者の像（サッカー選手の銅像）」との出会いとサッカー部監督としての全国優勝を目指しての一年一年の歩みは生涯忘れ得ぬものになりました。高専大会における九州大会30回の優勝と20回の全国優勝、更には、41年間喜怒哀楽を共にしてきた部員及びご父兄達との触れ合いと交情はまさに汗と涙にまみれた感動的なものでありました。

社会的には、鹿児島県サッカー協会理事長（20年）、九州サッカー協会理事長（10年）、日本サッカー協会理事（10年）などの活動を通して鹿児島高専教員として少しは貢献できたかなとも思っております。

私なりに、鹿児島高専という学校と学生を心から愛し、常に若者達と夢を求めながら歩んできたと自負しております。

今、学校を取り巻く我が国の世相は誠に厳しいものがありますが、鹿児島高専が今後更に発展することを祈念して退職の挨拶にかえさせていただきます。本当に有り難うございました。

鹿児島高専を退職するにあたって

土木工学科 疋田 誠

初代の小原校長から現在の赤坂校長まで、入れ替わった沢山の教職員の方々・学生諸君、皆、走馬燈のように感じられます。高専赴任時、土木工学科は「七人の侍」の教員によって創設されました。鹿児島市の祇園之洲にある河川公園の岩永三五郎の石像を刻んだ前迫氏いわく、「造ったものは、いつかは壊れる」。市民（Civil）のための工学、栄枯盛衰の違いはあっても、太古より存在する「Civil Engineering」は、不滅と思われれます。

鹿児島に高専が誕生した昭和38年4月、私も高校卒業と共に土木工学への道の第一歩を踏み出しました。東京オリンピックの昭和39年頃は、土木工学科の全盛時代でした。高専における最後の土木工学科も、鳩山首相の「コンクリートから人へ」の時代になりつつあります。一方では、大学の高等教育機関を鑑みると粗製乱造の感があります。学びたい若人だけで学ぶ、真理探究の場を描いてきた私にとって、高専の大学模倣化の流れに冬の時代を感じつつあります。人生の目的はお金を稼ぐことだけにあるのではなく、幸せを感じることにある。ドイツの片田舎に家族と泊まったとき、大自然とふれあい、暖かい心を感じることができました。平成という元号が始まり、ベルリンの壁が崩壊したときは、米国に滞在させていただき、DemocracyとFreedomの意味を、再び学び得た、と考えております。帰国後、平成5年夏の鹿児島豪雨・平成18年の川内川水害、桜島の土石流等の研究では、多くの卒研生と共に勉強の機会を与えて頂きました。ふと気がつくと、研究論文は200件、苦手な英文も20件を越えていました。英語の通じない国もあり、政治や宗教や文化の異なる15カ国を訪れてみると、世界は実に狭く、そこには、素晴らしい方々がおられること、多くのことを学ぶことができました。

この隼人には、幸い、疲れを癒す、素晴らしい温泉や焼酎があります。海や山や川、外国への空路も近く、高速道路、新幹線も気軽に利用できます。土木技術者による遺産の賜物です。学生諸君は、井の底の蛙（莊子）にならず、これからの風雪に耐え、社会で活躍してくれることを、心から期待いたします。41年間、長い間、お世話になりました。ありがとうございました。

退職のご挨拶

事務部長 上原今朝生

平成20年4月1日付けで本校に採用され、2年という短い期間でしたが、大過なく務めることができました。赤坂校長先生を始め、多くの先生方、先輩、同僚、学生及び後援会の方々の暖かいご指導ご鞭撻ご協力があったればこそと思っております。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

1年目の平成20年度には一般科目棟、学生共通棟の改修及びテニスコートの人工芝化等、また、2年目の平成21年度には機械工学科棟及び土木工学科棟、機械工学科棟、機械工場の改修及びラグビー場の芝生化等、随分と施設設備も改善されましたが、それに伴い、学生及び教職員には一時的とはいえ、狭い場所への引越し等、大変ご迷惑をおかけしました。ご協力有難うございました。特にラグビー場の芝植えにおきましては、教職員、学生、保護者、及び隼人錦江スポーツクラブの会員等、多くの方々にご協力頂き、今では青々とした素晴らしいラグビー場に生まれ変わっております。心から御礼を申し上げます。本校を去るにあたり、私が常々、大切にしております論語の衛霊公第15-24を記させていただきます。

「子貢問曰、有一言而可以終身行之者乎。子曰、其恕乎、己所不欲、勿施於人也。」

現代語訳は「弟子の子貢が、この一言なら生涯守るべき信条となるという言葉はあるのでしょうか。と質問した。孔子は、先ず恕だろう。人からされたくないことは、自分からも人にしないことだと答えた。」ということです。

この中で「恕」とは「思いやり」のことであり、人生において、最も大切なことだと思っております。

これからも教職員の皆さんが、其々の持ち場において、知識・知恵を最大限に発揮され、協調・協働により、国内は勿論、国際的にも貢献できる素晴らしい人材を育成して下さいようお願い申し上げまして、退職のご挨拶とさせていただきます。誠に有難うございました。

引地准教授が 九州工学教育協会賞を受賞

機械工学科引地准教授が、第11回（平成20年度）九州工学教育協会賞を受賞されました。この協会賞は、工学・工業教育に関する、新しい効果的な教育法、手段を提案・実践して工学・工業教育の発展に尽くした個人又は団体に贈られるものです。引地准教授の題目は「出前授業を利用した離島中学校へのものづくり教育支援への貢献」であり、この内容は、鹿児島県には離島が多く、ものづくり教育においての人材及び設備等不足の理由で、ものづくりの機会少ない状況であるところに着目され、引地准教授が離島中学校に出向いてものづくり教育を実践され、離島・小規模校の生徒達にものづくりに対して興味を持ってもらおうと同時に創造力の育成を試みてきたことが、高く評価され今回の受賞となりました。

なお、受賞されたのは3団体及び1個人でしたが、個人での受賞は引地准教授だけでした。

この授与式が、2月20日(金)に校長室で行われました。



河野教授が教員顕彰選考委員会 委員特別賞を受賞

電子制御工学科河野教授が、平成20年度国立高等専門学校教員顕彰「独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰選考委員会委員特別賞」を受賞されました。

この教員顕彰は、「国立高等専門学校教育業績賞」という名称で、教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められる教員を表彰するものです。

河野教授は、情報化社会が求めた変遷の激しい情報処理と数値制御技術教育に40年間係わってこられました。また管理運営では、寮務主事、地域共同テクノセンター長、教務主事等を20年間にわたり務められ、特に産学官連携組織の創設と本校発ベンチャー企業の設立に貢献していただきました。クラブ活動面では全国高専弓道連盟、西日本地区高専弓道連盟の創設にご尽力いただきました。これらのことが高く評価され今回の受賞となりました。

この授与式が、5月27日(木)に校長室で行われました。



平成20年度永年勤続表彰 (退職時) について

永年勤続表彰は、退職の日において、在職期間が30年以上の方を表彰するものです。平成20年度永年勤続表彰式については、平成21年3月31日(火)に校長室で行われました。表彰者は次の4名の方です。

所 属	氏 名
一般教育科文系	山 下 登 教 授
機 械 工 学 科	丸 山 伸 夫 教 授
土 木 工 学 科	平 田 登基男 教 授
技 術 室	中 原 和 範 技術長

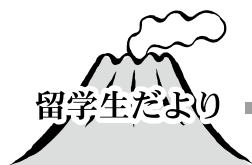


平成21年度 永年勤続表彰について

永年勤続表彰は、勤労感謝の日において、在職期間が20年以上の方を表彰するものです。平成21年度永年勤続表彰式については、平成21年11月17日(火)に校長室で行われました。表彰者は次の2名の方です。

所 属	氏 名
機 械 工 学 科	引 地 力 男 准教授
情 報 工 学 科	堂 込 一 秀 教 授





平成21年度留学生活動報告(2)

一般教育科文系
国際交流・留学生担当 精松伸二

日頃より、皆様方から留学生活動にご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。以下に、本年度後期の留学生活動をご報告致しますが、前号（高専だより61号）での前期活動と併せてご覧くだされば幸いに存じます。

*学内

10月22日（木）留学生会合（学寮）

10月31日（土）

高専祭（文化祭）

国際交流コーナーで留学生活動報告（展示）

11月26日（木）・27日（金）留学生チューター会合

12月10日（木）留学生パーティ（第一体育館）

3Mメーヌカ君、寮生会役員「お国紹介」

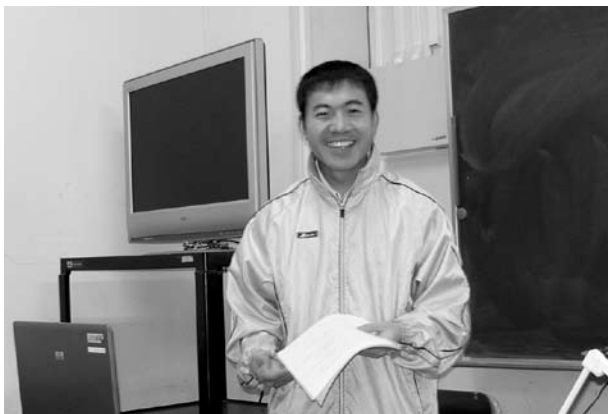


12月18日（金）

図書館2階・第二セミナー（現土木演習室）

留学生日本語プレゼンテーション（留学生4名発表）

審査員：非常勤・清水日本語教師、岩元三枝子様（後援会）、5Eキム君、精松



*霧島市内

11月29日（日）

国際交流の集いー世界の味ランチー（霧島市隼人町）

3Cヴッティー君、4Sギア君、4Iカオヤン君、5Eキム君、精松

本校からは、ギア君手作りの「ベトナム春巻き」を出品

*霧島市外

10月11日（日）・12日（月）

南さつま市にてホームステイ

3Cヴッティー君、4Sギア君

地域活動を通して交流を深めた

10月17日（土）・18日（日）

第4回かごしまアジア青少年芸術祭

5Eキム君通訳ボランティアとして活躍

10月18日（日）岩川・流鏑馬見学

3Mメーヌカ君、引地教員（国際交流員）

10月24日（土）・25日（日）

平成21年度九州沖縄地区留学生交流研修会

担当校：熊本高等専門学校八代キャンパス

留学生5名、精松



11月23日（月）曾於市・流鏑馬見学

留学生5名、引地教員、精松

12月20日（日）

第6回日本文化勉強会

そば打ち体験（都城市・がまこう庵）

大浪の池、霧島自然観察

5Eキム君、3Mメーヌカ君、

3Cヴッティー君、引地教員、精松





先輩から…

機械工学科 第36期生

本田技研工業株式会社 認証法規部 徳満 智和

私が鹿児島高専を卒業して、早5年が経とうとしています。現在は本田技研工業の熊本製作所に勤めています。仕事としては、二輪車の認可を取得すること、簡単に言えば、バイクが法律に従って作られているかを試験して、国に申請をする仕事です。

高専を卒業して、工業系の会社に勤めているということは、あたり前のように思えますが、実はそうでもありません。友人の高専卒業生においては、保育士になっていますし、東京でタクシードライバーをしている人もいます。この先、後輩の皆さんに何が起るかわかりませんが、5年後を想像してみてください。果たして、自分が望んでいる道に進んでいるのか…。

この文章を依頼されたとき、自分は後輩の皆さんに何が伝えられるかと考えてみました。その結果、あまりよくない事実を言うことになる気づきました。

高専卒業という会社での立場についてです。もちろん、専門知識があり、即戦力という意味で会社は雇うわけですが、はっきり言って即戦力にはなりません。人に一人前と呼ばれるまでになるには、どんな仕事でも最低3年かかると自分は思っています。また、そんな年月があれば、どんな学歴でも関係ありません。その道のプロに早くなりたいと思っているのであれば、学校なんか辞めて直に会社に入ったほうがいいでしょう。

しかし、先に会社に入ったからといって、先に出世するとは限りません。日本は学歴社会が根強く残っている社会です。特に大きな会社はその傾向が強いでしょう。高専卒の人が、二年後に入社した同い年の大学卒を追い越すには、それなりの努力と年月がかかります。厳しいことを言っていますが、これが自分の周りの現実です。

と言っても、自分は鹿児島高専を卒業して後悔したことはありません。逆に、楽しい時間と、多くの知識を得られたことに感謝しています。しかも、自分の望むような業種に勤めることができ、毎日充実した生活が送れています。

後輩の皆さんには、今を思いっきり楽しんで、将来の自分のために何をすべきかを考えて行動して欲しいです。そうすれば、自分の望む道はおのずと開かれるはずで。

高専卒はそれこそ就職には強いわけですから。その強みを活かして自分の望む道を見つけて欲しいと思います。

在校生の皆さんへ

電気工学科第20期生 桐木平順一

高専を卒業して、はや23年。私たちが卒業の頃は、求人倍率もかなりのものでしたが、諸事情により地元に残ることにした私は、先生の反対を押し切って全く畑違いである町役場へ就職して現在を過ごしております。

このような私が、学生の皆さんに言えることは何もありませんが、不惑の年を過ぎた今振り返ってみて思うことを書きつづてみたいと思います。

畑違いに就職して数年は、「高専で学んだことは何だったのだろう？」と自問自答しながらの生活でしたが、この年になってわかったことは、

- ・「人に教えてもらう」ことでなく
「自ら学び習得する」こと
- ・「学んだことを覚える」ことでなく

「必要な情報源のありかを覚える」ことでした。学生時代、学校長を始めとする先生方が口々にしていた「学生の本分は…」のフレーズが、このことであったことに気づかされました。

また、5年間という学生生活のなかで、上下関係の厳しさ、大切さを経験したことも、一社会人として大いに活かされていると思っています。

最近、縁あって度々学校を訪れるようになったのですが、私たちの頃と大きく変わっているように感じるのが学生寮でした。かつては1・2年は全寮制で、1年2人、2年2人の4人部屋で、勉学に限らず多くの伝統を先輩から受け継ぐことができていたかと思います。

寮生活をしていると社会や世間の情勢に疎くなる傾向があったため、当時は多くの寮生が部屋で新聞を購読していました。最近は、情報化社会のためか、新聞を読まない学生が多いと聞きますが、寮生のみならず学生の皆さん、新聞を読んでください。いや、読む「くせ」を身につけてください。先に述べた「情報源のありか」を覚える一歩だと思います。

最後になりますが、昨年同級生が病気で他界されました。それまで、個々にはあったもののクラス全体で情報交換をする場を持たなかった私たちに、彼が「仲間の大切さ」を再認識させてくれました。おかげで久しぶりに同窓会を開くこともできました。

学生の皆さん、ともに過ごす（した）仲間を大切にしてください。仲間は、かけがえのない「財産」です。そして、学業に限らず多くのことを学び、身につけてください。卒業してから、「高専生活は良かった」と振り返られるように…

近況報告

平成18年度卒業（電子制御工学科） 新屋敷一也

今回、恩師である室屋先生からの依頼を受け、高専だよりの執筆をさせて頂くこととなりました。テーマは特に指定されていないとのことですので、僭越ながら近況報告をさせて頂きます。

平成19年3月に卒業後、電機メーカーに就職し、大阪で新しい工場の立ち上げに関わる業務をしておりましたが、結婚と子供が生まれたのを機に、一念発起して九州大学へと転職致しました。

転職を思い立った背景は、もちろん家庭の事情を踏まえたものもあるのですが、仕事に不満を抱いていたからということもあるかもしれません。高専で過ごした5年間、特に実験や実習の授業を通して、自分で試行錯誤しながら問題を解決していくことに楽しみを覚えていたのですが、就職してからは、業務の根幹である部分はほとんどが他メーカー任せになっている部分があり、自分の業務としては、全体の企画・運営をするだけというものでした。ならば実際に自分の手で試行錯誤しながら機械に携わることができる所はどこかと考えると、高専・大学等の教育研究機関だろうと思ったことです。

この文章を書いている時点で、九州大学に採用されてから2カ月が経過し、その間実習の授業を担当して学生とも話す機会が多くあったのですが、自分が学生だった頃を思い出して、今更ながら、学生の方は先生方に色々ご迷惑をかけてしまったと痛感しております。

卒業し、社会に出て思ったことですが、自分で考える癖をもっと付けておけばよかったと思っています。考えるネタは最近のニュースやスポーツでも何でも良く、要は当事者意識を身に付けるために考える癖を付けるべきだったと思っています。あとは、高専での5年又は7年の学生生活の中で、自分が何をしたかを言えるようになるべきだと思います。私の場合は、学生会長をさせて頂くなど、色々なことを経験させて頂いたので、話に事欠かなかったのですが、ただ学生生活を過ごすのではなく、色々経験を積むことで、話題としてだけでなく、考え方に違いが出てきます。

最後になりましたが、鹿児島高専の益々のご発展を祈念して、結びの御挨拶とさせて頂きます。

社会人になって

情報工学科 第19期卒業生 崎田 将哉

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生の皆さん、進級おめでとうございます。皆さんが新たな道に進んでいく、このすばらしい日に、こうして私の言葉を残せることを大変嬉しく思います。

さて、ちょうど一年前に皆さんと同じように卒業を迎え、就職した私ですが、卒業式・修了式に焦点を合わせた「高専だより」への執筆ということで、私なりに就職してどうなのか、思うことを書いてみようと思います。如何せんまだまだ社会に出て一年の未熟者ですので、これから将来どう道を切り開いていこうか思い悩む皆さんにとって、良いアドバイスとならないかもしれませんが、一つのケースとして、「こういう考え方もあるのか」と何か少しでも感じるものを残すことができれば幸いです。

社会人になって、仕事をしていて思うのは、人として当たり前のことが、存外難しいということです。「当たり前」というのは、身なり、服装であったり、言葉遣いであったりです。入社当時、研修中指導してくださった方が「会社に入るといことは、会社の顔になるということ、会社の看板を背負うということ」と仰いました。自分の行動には常に責任がついてきます。会社の顔である人間がとった行動はその会社の行動として見られてしまうのです。つまり、自分一人の身なりや服装の乱れは、会社全体の雰囲気として見られてしまうこともあるのです。身なりを整えることなど簡単なことではありますが、灯台下暗しという言葉があるように、自分のことは意外とわからないものです。

それから、仕事をしていて、私がこれだけは本当にもっと勉強しておけばよかったと後悔しているのが言葉遣いです。上司との会話や、電話対応などで毎度のように、日本語は難しいと考えさせられます。仕事を円滑に行うには一緒に仕事をする仲間とコミュニケーションと取ることが不可欠です。会話をするとき、相手に失礼のないよう、目上の人の前でも堂々としていられるよう、尊敬語や謙譲後や丁寧語などしっかり勉強しておくと思います。

だいぶ偉そうに語ってしまいましたが、私が思ったことは大体これくらいです。「こんな仕事をしています」とか「（仕事をするにあたって専門的な）こういう勉強をするべき」とかそういったアドバイスはないのかと思う方もいらっしゃると思いますが、私自身、今現在取り組んでいる仕事が未知の世界なのでアドバイスのしようがありません。高専で学んだことが役に立っていないという訳では決してありません。ですが、先に述べました

「当たり前のこと」が、専門的な知識よりも重要になる場面が多々あるのも事実です。私のように会社に入ってから勉強しても遅すぎるということはありませんが、基本的なことがしっかりできているのと、できていないのとでは上司や先輩からの評価も違うと思いますし、何より仕事をする仲間とより良い人間関係を築くことができるのではないのでしょうか。

長々と駄文を書き連ねてしまいましたが、卒業生の皆さんも在校生の皆さんも、高専生活を共にした、共にしている仲間を大切に、これからの新生活、高専生活を楽しんでください！

高専生から高専教員になって

平成13年度卒業 豊田高専 田中 貴幸

平成13年度に鹿児島高専の土木工学科を卒業してから早8年の月日が経ちました。私は現在愛知県豊田市にある豊田高専の環境都市工学科で助教として働いています。

鹿児島高専から熊本大学に編入学し、そのまま博士課程まで進学して博士号を取得した後、平成21年4月から教員として働き始めました。研究は水の流れや河川環境に関して取り組んでいます。

研究者になりたいと考え始めたのは鹿児島高専在籍時に土木学会西部支部で研究発表を行ったときです。優秀講演賞を頂くことができ、がんばったことが認められた気がして大きなやりがいを感じ、研究者になりたいと考え始めました。

外の世界を見たいという思いから大学に編入しましたが、そこで感じたことは高専生は大学生にも負けていないということです。専門に対する知識や経験、様々な課題に取り組む姿勢など、高専生はいろいろな面で高い能力を有していると実感することができました。博士課程在籍時に進路を決定する際は、高専をさらに育てたいという思いがあったため、水理関係の教員を募集していた豊田高専を受け、採用されることになりました。

新任教員ではありますが、1年目から授業は6科目を担当し、卒業研究生は専攻科生を合わせて3名受け持っています。部活動では、鹿児島高専在籍時に卓球部の主将をしていたこともあり、卓球部と軽音部の顧問をしています。また、国際交流委員などの委員会活動も行っています。高専の教員になって、ようやく高専教員の大



変さを知りました。学生時代にはなかなか分からないものですが、高専教員は大変な職業ですので学生のみなさんはもう少し教員の方々に優しくしていただければと思います（笑）。

豊田高専はトヨタのような大企業を有する豊田市にあるため、ものづくりに非常に力を入れています。ロボコンやデザコンでも毎年のように賞をとっています。その中で教員としてやっていく大変さもありますが、薩摩魂を全面的に押し出してがんばっていきたいと思います。

最後に学生の皆さんにアドバイスですが、高専は5年間ほぼ同じ校舎、クラスで過ごすことになりますので、積極的に外の世界に出ていくことをお勧めします。やはり社交性や積極性が社会に出ると必要になりますので、広い視野を持って、先を見据え高い意識を持って毎日を過ごして頂ければと思います。鹿児島高専および学生のみなさんの今後のさらなるご活躍を期待しております。

私の学生生活

九州大学大学院 宇宿 史彦

私は、平成13年に鹿児島高専の機械工学科へと入学しました。入学当初は様々な思いを抱いていたことを今でも覚えています。その学生生活も今年で9年目となりました。

本科では、機械工学の基礎から応用まで、多くのことを学びました。特に、3年次以降は、より専門的に様々な力学を学ぶことができ、さらに学びたいという気持ちが芽生え、専攻科への進学を決意しました。

専攻科の講義では、本科で学んだことを元に、より高度な知識を身に付けることができました。そして、機械という分野だけではなく、制御や電気などの他の分野も学べました。また、本科5年生から専攻科を含めた3年間は、充実した研究生活をおくれました。当時、所属していた研究室の恩師の熱心なご指導のもと、研究結果を様々な学会で、企業の方々や他の大学生に交じって発表を行いました。一般の大学4年生で行うような研究、学会発表を大学2年生相当で行うことができ、研究に対する姿勢や考え、そしてプレゼンテーションの基本などを早めに身に付けることができました。時には、上手いかず辛いときもありましたが、今となっては非常に貴重な経験ができ、心から感謝しています。

様々な講義、研究活動を経て、より高度な研究を行いたいと感じ、現在の大学院へと進学を決意しました。大学院では、今まで培った知識と技術を元に日々奮闘を続けています。現在は、修了に向けて修士論文に取り掛

かっているところで、皆さんがこれをお読みになるころには、おそらく修了式を迎えているころだと思います。非常に厳しいものではありませんでしたが、就職活動も無事終わることができ、来年度からは社会人として過ごすことになります。就職活動においても、高専、特に専攻科で身に付けたことが大いに役にたちました。

これから高専に入学しようと考えている皆さんには、想像できないことばかりでしょう。高専や専攻科では多くの分野の知識ばかりでなく、学業に対する取り組み方から、考え方、技術者としての心構えなど、基本的なことも学ぶことができます。私も一つ一つ、ご指導をいただきながら身に付けていきました。在校生の皆さんは、経験の一つ一つが大きな財産になりますので、よく学び、学生生活も十分に楽しんでください。

最後に、在学中、研究室において熱心にご指導いただきました故 中島正弘教官、そして田畑隆英教官をはじめ教職員の皆様方や学友に対しこの場を借りて御礼申し上げます。

ありがとうございました。

就職して大切だと思うこと

平成20年度電気情報システム工学専攻修了 宮田 昭彦

私は現在パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社のキャパシタビジネスユニットで生産技術として生産設備の設計、改良などを行っています。まだ、入社して1年あまりですが、新製品の立ち上げや増産体制の構築などがあり非常に忙しい毎日を送っています。

私の現在の仕事内容は、生産技術の中でも電気系なので、設備の制御ソフトウェアや画像認識装置を用いた自動外観検査装置での検査アルゴリズムの設計、改良などです。行う仕事のほとんどが、高専時代に体験することなかった仕事ばかりで、最初は戸惑うことも多かったのですが、新しいものに挑戦できるということで楽しく仕事しています。また、新しい仕事をする中であっても、高専時代の幅広い分野に渡る授業とそこで得られた知識に助けられることがあり、非常に有難く思っています。

私が、仕事をするようになって改めて大事だと感じることがいくつかあります。

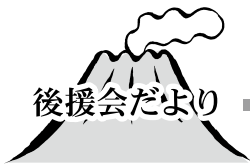
一つ目は、知識（土台）の広さです。学生時代に行っていた研究や、それに近い内容を会社に入ってからも行えるかという、多くの人はそうではないと思います。私は高専時代の卒業研究、特別研究ではパワーエレクトロニクス分野の研究を行っていましたが、現在、会社でやっている仕事はシーケンス制御と画像処理が主です。

しかし、先ほども述べたように高専時代に様々な授業から得た知識が役に立ってくれています。これは広い分野を学ぶことができる高専だからこそ持てる、一般の大学生に対するアドバンテージだと思います。在校生の皆さんはこのアドバンテージを生かせるように授業から多くのことを学んでほしいです。

二つ目は、計画力です。仕事には必ず期限がありますし、1つの仕事だけこなしていればいいわけではありません。期限や優先度、難易度の違うたくさんの仕事をこなしていくためには、仕事の日程計画を立てることが必要不可欠になってきます。私自身も計画というのは高専時代にはあまり意識していなかったことなので、今、苦労していることのひとつです。このあたりは授業では教えてもらえないことなので、先生に直接聞いてでも計画力を身につけておくと、会社に入ってからとても有利だと思います。

三つ目は、語学力です。私の職場には海外の工場から定期的の実習生がやってきます。私自身もその対応として仕事の指導をしなければならないのですが、彼らはほとんど日本語を話せません。そんな彼らに仕事の内容を説明するために英語を使うのですが、伝えたいことをわかりやすい英語に直すことができないので非常に苦労しています。専攻科の修了にはTOEIC400点が必要なので専攻科生の皆さんは英語の勉強をがんばっていると思いますが、本科生の皆さんも会社に入ってから、必ず英語を話さなければならない機会が出てくると思うので、授業で英語を教えてもらえる学生時代に勉強しておくことをお勧めします。

一昨年のリーマンショック以来の不景気で暗い話題が多い中、進路を決めていくことは非常に大変だと思います。また、企業もより良い人材を求めているので、他の人にはない自分だけの何かを身につけられるよう学生生活を有意義に過ごしてください。



鹿児島高専に感謝！

鹿児島高専後援会 監査役 下吉 靖孝

平成17年4月、次男坊が高専に入学しました。私たち家族は、私の仕事の関係で奄美大島に住んでいましたので、次男坊だけの鹿児島での生活が始まります。私たち夫婦にとっても、子どもを家族から旅出させる初めての体験です。幸いに高専は完全寮生だったので食と住は安心していましたが、4人兄弟の2番目で、どちらかというとあまり自分を表現せず内弁慶的な性格でしたので、果たして寮生活ができるのか心配半分、期待半分で名瀬港から送り出したのを思い出します。入学してしばらくして、サッカー部に入部し地獄？のトレーニングの話を聞かれ、我が息子ながらがんばっていると思うことでした。その年の夏になり、県高校サッカー新人戦の始良地区の予選を突破し、偶然にも本大会の会場が奄美（名瀬）大会ということでサッカー部が奄美にやってきました。次男坊とは5ヶ月ぶりの再会です。離れていたせいもあるのか幾分遅くなったと感じることでした。残念ながら、1日目で敗退したので、2日目は私の出番と思い、ハブや奄美の海を体験させ、最後に奄美大島最北端の我が家（佐仁）まで移動し、妻がこしらえた鶏飯をご馳走したのを思い出します。その時の子どもたちの食欲のすごさといったら…。そうそう、現花田会長と初めて飲んだのもその時でしたね。お互いビール好きで！

次の年、私も転勤となり、偶然にも霧島市へ移動することとなりました。近くにきてよかったと思いきや、なんと生活の怠慢により我が家から通学することになりました。たまたま、転勤が霧島市であったのでその難はのがれましたが、親としては納得いかない面も多々ありました。また、仕事柄、高専の先生方と会う機会も多くなり、高専を身近に感じるようになったころです。

そして、次の年、監査役という大役をおおせ使い、後援会事務局の岩元さんとの出会いもあり、高専との関わりが深くなっていきました。安易に考え受けた監査役でしたが、年間4,000万の会計とは知らず大変な役を受けてしまったと思うことでした。当然、監査は半端ではなく、監事2人で朝の9時から夕方5時まで真剣に見させていただきました。また、その資料を的確に整理した後援会事務局員さんも只者ではないと思いました。

その年の後半、思わぬ事態が次男坊に発生しました。なんと、全国高校サッカー選手権鹿児島大会の始良地区予選に負け燃え尽きたのが理由なのか、次男坊は退部するといわれました。父親としては、そんなことで退部するなど考えられません。徹底的に反対し、何とか阻止しようとした。その時の、親子間の険悪なこと！結局、やめてしまいましたが、今でも、先生方には申し訳なかったと思っています。しかし、私の父の古希の祝

いをしたときのことで、孫たちがそれぞれ出し物をする事になり、次男坊の時となりました。どちらかというと自分を表現しないと先ほどふれましたが、上機嫌な親父の前で次男坊がお祝いの踊りをするではありませんか。なんと上半身裸になりサッカー部でやっていた筋肉踊りでしょうか、リズムに乗り小刻みに体を動かす芸に親父も大爆笑。山崎監督が、「馬鹿になれ！馬鹿にならないでどうするか！」とのいつもの言葉を思い出すとともに、こんなことができるようになったのかと改めてサッカー部で過ごした日々は貴重であったと先生方や仲間感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また、監査役を通して様々な学校や後援会の取り組みも知ることができました。独立行政法人になり苦労していること、高専のメインともいえるロボコン大会のロボット製作費用、新たな制度を利用した課外活動支援事業（学外コーチの導入）への取り組みなど独自性と前進する取り組みや苦労している点が見えてきます。監査役として、細かいことを申したことも多々あったかと思いますが、透明性・公平性はもちろんのことですが、更なる発展を願うことでもあります。学校と後援会が丸となって頑張ることこそが鹿児島高専が相乗的に発展する最大の武器だと思います。

後援会員のみなさん。いろいろな機会を通じて学校に来てください。中をご覧にならないと見えてこないこともあります。授業参観の現実も実は後援会が辛抱強くお願いした結果です。高校であり大学である高専の方向性は、先生方はもちろんのこと保護者の皆様も含め協働で考えていかなければならないことだと思います。

最後に、不景気のこの世の中ですが、就職も決まり卒業を残した次男坊ですが、私は、高専の教育方針に心から感謝しています。1年生の完全寮制による自己管理能力の育成、徹底した実践力（技術力）の育成、部活や高専際などを通じた精神力・団結力の育成など高専ならではのよさが今の次男坊を育ててきたと思っています。そして、もう一つは、活動を裏で支えている後援会も忘れてはいけません。

今、高専もいろんな意味で変革の時期に来ていると思います。地域の中の学校、地元教育委員会との連携、専門機関としての地域への貢献など学校内だけで満足できる時代ではありません。温故知新を大切に今後も更なる発展を期待します。私の方は、今後、外から応援したいと思います。

鹿児島工業高等専門学校 ばんざい！そして、ありがとう！

PS、ちなみに、最近、小6の三男坊が、「高専にいいかな。」と話しています。また、高専後援会にすることができるかもしれない私です。

熱いキャンパスの応援団Vol.2

後援会監査役 西 潤一

以前、後援会監査役をおおせつかった時にも執筆依頼をいただき、今回また「卒業」を機にご依頼をいただきました。月日の経つのは早いもので、あれから5年もの歳月が過ぎましたが、初心を思い出しながら、同じタイトルでVol.2として書いてみることにします。

後援会組織の内容すら分からないまま大役を引き受けてしまいましたが、役目をとおして、課外活動、学業を問わず学生の華々しい活躍にふれることができました。体育系のサッカーやテニス、文科系のメカ研やプラスバンド、学業においては、TOEIC等において目を見張る成績を挙げっていますが、それだけでなく各学生それぞれが、個人としても様々な夢を持ち、その実現に向け取り組んでいる姿を見て、大変頼もしく思いました。

ある歌の歌詞に「行く先を照らすのは まだ咲かぬ見果てぬ夢 はるか後ろを照らすのは あどけない夢」と言うものがあります。人生において、将来の明るい希望に胸躍らせて様々な課題に挑戦し、どうしても打ち破れない壁に阻まれた時、少年の頃に憧れた純粋な夢が、再び挑戦する気持ちを奮い立たせてくれるものだと思います。そんな希望に満ちた、明るい「夢」の持てる環境を作るために、後ろ盾となり支援するのが「後援会」の役割だろうと思います。光をより強くすることも大切なことだと思いますが、光の当たらないところで必死に努力している者についても光を当てることを考えながら、偏りのない支援と、より一層のやる気を喚起するためにメリハリのある支援に心掛けなければならないと考えています。

ところで、卒業記念に後援会から、ささやかなプレゼントがあるのをご存知ですか？

それは「スプーン」です。「卒業生一人ひとりが、スプーン一杯の幸せを掬い取れるように」との思いを込めて、一昨年あたりから恒例になりつつあります。

後援会は、常に熱いキャンパスの応援団として、全ての学生のガンバリをサポートしながら、卒業後も幸せであるよう願っています。

最後になりましたが、保護者の方々も学生の応援に際し、クラスの理事をとおして、御希望や御要望等お寄せいただき、より良い環境ができますよう御協力をお願いします。

5年間を振り返って

電気電子工学科5年理事 新福ゆかり

娘が中学3年の夏休みに鹿児島高専の体験入学に参加させて頂いて帰ってくるなり 私、高専に進学したいと言って帰ってきたのをこの前のように思います。

月日の経つのは早いもので、あの日から5年…もうすぐ娘も卒業式を迎えます。

娘の高専入学とともに当時担任だった丸山先生から理事の話を頂き（自宅が高専に近いことが理由だったと思いますが…）私でいいのかな？と不安を抱えながら引き受けさせていただいた理事でした。

5年前先輩の理事さん方が、何度も学校に足を運び話し合いの末に実施することになった授業参観を私たちが1年のときに第1回目を開催することができました。

今思うと、当時私達も初めての事でしたので、何をどうしていいのか迷いながらの段取りでしたが多数の保護者の方に参加していただきました。昨年まで後援会主催でした授業参観も本年度より学校主催へと体制も変わりこれも単に会員の皆様、ならびに学校関係者の御協力・御理解の御陰と感謝しております。ありがとうございます。

娘も今年は、成人式を迎え4月からは社会人として上京します。

子供の成長は本当に早いなあーと最近とても寂しくなります。（子離れできるか心配です。）でも娘の選んだ人生です。これから色々な事を経験し体験して大人の階段を上っていくことになるでしょう。この高専で学んだ事、そして出会ったたくさんの友人や先輩・後輩お世話になった先生方に感謝して悔いのない人生を歩んでほしいと思います。

私自身理事を引き受けさせていただいた5年間何もお役に立てませんでしたが、たくさんの事を学ばせていただきました。理事になったことを後悔した時もありましたが、今では常務理事の岩元さんをはじめ皆様と知り合いになれたことをとても感謝しています。

本当にお世話になりました。5年間ありがとうございました。

高専との関わりを振り返って

電子制御工学科 5 年理事 西方 珠子

この隼人の地に根をおろした頃は、子供達も小学生で高専がある事すら知らずにいました。しかし、早くから技術者になる夢を持ち、縁あって高専に入学できた日の喜びは、今でも覚えています。

長男が寮生活を始めた時は、口数が少ない事もあり、生活状況等の情報不足への不満を感じている状態でした。しかし、貴重な集団生活を体験できた事で、良くも悪くも色々な面で成長したように思います。

自宅通学になってからは、「学生生活」をエンジョイする中、学業への意欲が今ひとつで、学校からの情報も少なく、親だけが不安を感じていました。

そんな中、二男も高専の魅力に引かれ、入学する事ができました。その際、理事のお話があり、一年間の予定でお引き受けしたのですが、結局今日まで五年間務めさせていただいた次第です。

現在の「授業参観ツアー」は、後援会主催で平成十七年より実施されましたが、熱心な先輩理事さん方が、学校へ働きかけを続けてこられたお陰で実現する運びとなった訳です。新人理事の一人として、大きな一步に関わらせて頂いた事は、大変良い経験になりました。その後、支部会も発足し、後援会活動に関わるたびに、保護者の声・学校からの情報をたくさん知る事ができました。

名ばかりの理事で、大して役には立ちませんでしたが、気の合った良い仲間恵まれたお陰で、楽しみながら今日までこられたと思います。そして、後援会の「脳」的存在である常務理事の岩元さん、本当に有難うございました。いつも後援会の事を考え、病の時も体にムチ打って頑張って頂けた事、本当に感謝致します。今後とも、子供達の為に、よろしくお願い致します。

卒業を目前にし、戦後最悪の就職難と言われる中、高専を選んで良かったと思っています。

学生一人一人が立派な技術者となり巣立って行けますように、今後共、後援会活動へのより一層のご意見・ご協力をよろしくお願い致します。

5 年間の理事を振り返って

情報工学科 5 年理事 平田 昌子

3 月の息子の卒業とともに、私のクラス理事も終わろうとしています。

思えば、1 年の入学式前日の夜、担任の塚崎先生よりお電話をいただき、「クラス理事になっていただけませんか？」との事、あまりの急な事に驚き戸惑いましたが、お引き受けする事になり、5 年があつという間に過ぎました。

当初は何もわからず、理事会に出席しても、ただ座って皆さんの話を聞いているだけでしたが、会を重ねていくうちに他の理事の方々とも打ち解け、最後の方では理事会が楽しみになるくらいでした。

理事としてたいした仕事はできませんでしたが、様々な行事に関わらせていただきました。なかでも 1 年の時の授業参観ツアーは 1 番記憶に残っています。何もわからない中で、先生方・常務理事の岩元さんのご協力が無事開催することができました。

また、構内清掃・支部会などお手伝いさせていただき、学校がより身近に感じられるようになりました。

ただクラス理事とは言っても、クラスの保護者の方々と接する事は少なく、1 年に 1、2 回お会いするぐらいで、何もお役に立てなかった事は申し訳なく思っています。

最後に、5 年間お世話になりました先生方、常務理事の岩元さん、理事の方々本当にありがとうございました。私自身よい勉強をさせていただきました。

最後に、後援会のこれからのますますのご発展をお祈りいたします。

平成22年度 行事予定表

No.1

平成22(2010)年4月					平成22(2010)年5月					平成22(2010)年6月					平成22(2010)年7月				
曜 日	行 事		曜 日	出 席 回 数	行 事		曜 日	出 席 回 数	行 事		曜 日	出 席 回 数	行 事		曜 日	出 席 回 数	行 事		回 教 席
	本 科	専攻科			本 科	専攻科			本 科	専攻科			本 科	専攻科			本 科	専攻科	
1 木	辞令交付式		1 土	1			1 火	1	前期学力選抜判定会議		1 火	7	38	1	木				12
2 金			2 日	2			2 水	2	前期学力選抜合格発表		2 水	7	39	2	金	短縮授業			13
3 土			3 月	3			3 木	3	前学期中間試験／成績入力開始		3 木	8	40	3	土	一日体験入学			32
4 日	入学式(10時)／入寮式(14時)／開校(0時)／部室創設発表／寮オリエンテーション開始(学年別)		4 火	1			4 金	4	前学期中間試験 欠限時数入力(反縮切(15時))		4 金	9	41	4	日				33
5 月	入学式(10時)／入寮式(14時)／開校(0時)／部室創設発表／寮オリエンテーション開始(学年別)		5 水	2	1	こどもの日	5 土	15			5 土	24	5	月	5	短縮授業／編入学進学受付(9日まで)			12
6 火	校務／身体測定／写真撮影 始末／警務／総合学力調査 前学期授業開始／講義受付／講義聴取受付		6 木	3	2		6 日	4	20	6	6 日	25	6	火	6	短縮授業			12
7 水	前学期授業開始／講義聴取受付		7 金	1	3		7 土	5	21	7	7 月	8	42	7	水	短縮授業／繁七夕飾り／バーベキュー			12
8 木			8 土	1	4	対都城高専視察試合	8 日	16	8	8 火	8 火	8	43	8	木	短縮授業			13
9 金	運営会議		9 日	1	5		9 水	17	9	9 水	9 水	8	44	9	金	短縮授業 休講			34
10 土	寮リーダー研修		10 月	4	10		10 木	4	22	10 木	10 木	9	45	10	土	九州沖通地区高専体育大会（鹿児島・熊本(八代)）／校務進			35
11 日			11 火	5	11		11 火	4	23	11 金	運営会議	10	46	11	日	九州沖通地区高専体育大会（鹿児島・熊本(八代)）			36
12 月	朝部イベント/X線検査(14時0分)		12 水	1	6		12 水	4	24	12 土		26	12	月					13
13 火	心電図検査(8時50分)		13 木	1	7		13 木	5	25	13 日		27	13	火					13
14 水	1年生研修		14 金	2	8		14 金	6	26	14 月		9	47	14	水				13
15 木	1年生研修	前学期選抜科目受講届締切／再試験聴取締切	15 土	2	9	保護者懇談会	15 土	18	15	火		9	48	15	木				14
16 金	校務進		16 日	2	10		16 水	19	16	水		9	49	16	金	九州沖通地区高専体育大会（鹿児島・熊本(八代)）／校務進			14
17 土			17 月	6	17		17 月	5	27	17 木	成績入力締切(17時)	10	50	17	土	九州沖通地区高専体育大会（鹿児島・熊本(八代)）			37
18 日			18 火	7	18		18 火	5	28	18 金	校務進	11	51	18	日	九州沖通地区高専体育大会（鹿児島・熊本(八代)）			38
19 月	短縮授業／学業進捗訓練		19 水	2	11		19 水	5	29	19 土		28	19	月		海の日			39
20 火	短縮授業／開校記念講演 推薦書受付(23日まで)		20 木	2	12		20 木	6	30	20 日		29	20	火		欠限時数入力開始			14
21 水	前学期選抜科目受講締結届締切 前学期選抜科目受講締結届締切		21 金	3	13		21 金	7	31	21 月		10	52	21	水	前学期末試験時間発表			14
22 木			22 土	3	14		22 土	20	22	火		10	53	22	木	月曜日の授業			14
23 金	短縮授業		23 日	3	15		23 日	21	23	水	校内一斉清掃	10	54	23	金	前学期末試験／成績入力開始(13時)			15
24 土	寮生マッチ		24 月	8	24		24 月	6	32	24 木	短縮授業／成績会議(午後～)	11	55	24	土	編入学試験			40
25 日			25 火	9	25		25 火	6	33	25 金		12	56	25	日				41
26 月			26 水	3	16		26 水	6	34	26 土		30	26	月		欠限時数入力開始／後学期選択科目受講届受付(8.5まで)			15
27 火			27 木	3	17		27 木	7	35	27 日		31	27	火		前学期末試験			15
28 水	クラスマッチ・学生会主催行事		28 金	4	18		28 金	8	36	28 月		11	57	28	水	前学期末試験			15
29 木	昭和の日		29 土	10	29		29 土	22	29	火		11	58	29	木	編入学判定会議			15
30 金			30 日	4	19		30 日	23	30	水	校内一斉清掃(土曜日)	11	59	30	金	前学期末試験／成績入力開始(13時)／編入学合格発表			1
			31 月	7	37		31 月	7	37					31	土				42
緊急分別説明会					交通安全講習会(1,2,3年)					交通安全講習会(4,5年)					西日本地区高専弓道大会(熊本)				
TOEIC (R5年生)					高校総体					高専ロボット・音楽会(鹿児島県市民文化ホール)					西日本地区高専空手道大会(大分)				
4, 5年生へのJ/ABEEの学習教育目標の周知(4/5 : LHR時)										公開講座									
										二輪車実技講習									

平成22年度 行事予定表

No.2

平成22(2010)年8月					平成22(2010)年9月					平成22(2010)年10月					平成22(2010)年11月				
日	曜 日	行 事		出席 数	曜 日	行 事		出席 数	曜 日	行 事		出席 数	曜 日	行 事		出席 数	曜 日	行 事	
		本 科	専攻科			本 科	専攻科			本 科	専攻科			本 科	専攻科			本 科	専攻科
1 日				43	1 水			69	1 金	開校記念日 学生代休		99	1 月	高専統学生代休	休講	109			
2 月		前期期末試験／ 欠課時数入力係締切(15時)	補講、特別研究	2 80	2 木			70	2 土			100	2 火	高専統学生代休	休講	110			
3 火		前期期末試験	補講、特別研究	3 81	3 金			71	3 日	開寮(10時)・部屋割発表		101	3 水		文化の日	111			
4 水		前期期末試験	補講、特別研究	4 82	4 土			72	4 月	後学期授業開始／短縮授業／ 学年集会／寮班長研修会	短縮授業／後学期授業開始／学年集 会／寮班長研修会(7日まで)／後学期選 択科目受講届受付／新学期科目再決 断届受付	1 85	4 木			5 106			
5 木		前期期末試験／寮班長研修 後学期選択科目受講届締切	補講、特別研究／寮 班長研修会	5 83	5 日			73	5 火			1 86	5 金			4 107			
6 金		答案返却・解読／LHK／清掃	補講、特別研究／LHK／清 掃	6 84	6 月			74	6 水			1 87	6 土		後期学力・社会入選校試験	112			
7 土		閉寮(11時)		44	7 火			75	7 木			1 88	7 日			113			
8 日				45	8 水			76	8 金	留学生パーティ／運営会議		1 89	8 月	4年生工場見学旅行		4 108			
9 月		進校準備開始		46	9 木			77	9 土			102	9 火	4年生工場見学旅行		5 109			
10 火				47	10 金	運営会議		78	10 日			103	10 水	4年生工場見学旅行		5 110			
11 水		全国高専体育大会(東海・北陸 地区)		48	11 土			79	11 月	体育の日		104	11 木	4年生工場見学旅行		6 111			
12 木		全国高専体育大会(東海・北陸 地区)		49	12 日			80	12 火			2 90	12 金	4年生工場見学旅行／ 運営会議		5 112			
13 金				50	13 月			81	13 水			2 91	13 土			114			
14 土				51	14 火			82	14 木			2 92	14 日			115			
15 日				52	15 水			83	15 金	校務連		2 93	15 月			5 113			
16 月				53	16 木			84	16 土	プロコン本戦(高知)			16 火	九州高専冬季体育大会 (鹿児島)		6 114			
17 火		成績入力締切(7時)		54	17 金	校務連		85	17 日	プロコン本戦(高知)／プロコン九州 沖縄地区大会(代官栄市)		106	17 水	後期学力・社会入選校判定会 議		6 115			
18 水		全国高専体育大会 (東海・北陸地区)		55	18 土			86	18 月	再試験結果入力開始(13時)		2 94	18 木			7 116			
19 木		全国高専体育大会／後学期期間編成 (東海・北陸地区)		56	19 日			87	19 火	後学期選択科目受講届退品締 切		3 95	19 金	校務連		6 117			
20 金		全国高専体育大会 (東海・北陸地区)		57	20 月		敬老の日	88	20 水			3 96	20 土			116			
21 土		全国高専体育大会 (東海・北陸地区)		58	21 火			89	21 木			3 97	21 日	ロボコン全国大会(同国技館)		117			
22 日		全国高専体育大会 (東海・北陸地区)		59	22 水			90	22 金	再試験結果入力締切(17時)		3 98	22 月	後学期中間試験時間発表		6 118			
23 月		全国高専体育大会 (東海・北陸地区)		60	23 木		秋分の日	91	23 土			107	23 火		勤労感謝の日	118			
24 火		全国高専体育大会 (東海・北陸地区)		61	24 金			92	24 日			108	24 水			7 119			
25 水		全国高専体育大会 (東海・北陸地区)		62	25 土			93	25 月			3 99	25 木			8 120			
26 木				63	26 日			94	26 火			4 100	26 金	欠課時数入力開始		7 121			
27 金				64	27 月			95	27 水	短縮授業／高専統準備／ 校内一斉清掃	短縮授業	4 101	27 土			119			
28 土				65	28 火			96	28 木	短縮授業／高専統準備／ 校内一斉清掃(土曜日)	短縮授業	4 102	28 日			120			
29 日				66	29 水			97	29 金	高専統準備／ハーフサル(休講)	補講、特別研究	6 103	29 月			7 122			
30 月				67	30 木			98	30 土	高専統(文化祭)		7 104	30 火			7 123			
31 火		成瀬会議		68					31 日	高専統(体育祭)		8 105							
九州沖縄地区高専英語弁論大会(佐世保)					地区別学校紹介、後援会支部総会					中学校個別訪問					鹿児島県教育委員会				
鹿児島高専の日(鹿児島市立科学館 8/22)					2年生海外語学研修、学生交流(マニセバポリテクニーク)					学習・教育目標達成度の確認(4年生及び5年生の専攻科入学生定着、10/4・1HR時)					JABEE技術者教育プログラムの説明(6年生の特別活動)				
全国高専教育フォーラム(8/26～8/28)					国際工芸教育研究集会(9/28～9/30)														
全国高専テクノフォーラム(8/18、8/19)																			

平成22年度 行事予定表

No.3

平成22(2010)年12月					平成23(2011)年1月					平成23(2011)年2月					平成23(2011)年3月				
日	曜	行	事	出席	曜	日	出席	回数	行	事	出席	回数	日	曜	行	事	出席	回数	出
日	曜	本 科	専攻科	出席	曜	日	出席	回数	本 科	専攻科	出席	回数	日	曜	本 科	専攻科	出席	回数	出
1	水	後学期中間試験／成績入力開始(13時)		8 124	1 土	元日	136	1 火	再試験結果入力開始(13時)	再試験結果入力開始(13時)／大課時数入力開始	14 157	1 火	卒業研究発表				161		
2	木	後学期中間試験／大課時数入力開始(15時)		9 125	2 日		137	2 水		特別研究論文提出締切(17時)	14 158	2 水			特別研究中間発表会(1年)		162		
3	金	後学期中間試験		8 126	3 月		138	3 木			14 159	3 木			成績入力締切(18時)		163		
4	土			121	4 火	仕事始め	139	4 金	後学期末試験／成績入力開始(13時)	後学期末試験／成績入力開始(13時)	15 160	4 金			1年生成績入力締切(17時)		164		
5	日			122	5 水	開教(10時)	140	5 土			150	5 土					165		
6	月	後学期中間試験		8 127	6 木	授業開始	11 140	6 日			151	6 日					166		
7	火	後学期中間試験		8 128	7 金		11 141	7 月			14 161	7 月					167		
8	水			9 129	8 土		141	8 火	再試験結果入力締切(17時)	再試験結果入力締切(17時)／後学期末試験／大課時数入力開始(15時)	15 162	8 火			卒業判定会議(13時30分)		168		
9	木	寮生講話		10 130	9 日		142	9 水	次年度前学期選択科目受講品受付(24日まで)	後学期末試験	15 163	9 水			平成23年度前学期時間割編成		169		
10	金	運営会議		9 131	10 月	成人の日	143	10 木	大課時数入力開始	後学期末試験	15 164	10 木					170		
11	土			123	11 火	推薦入学願書受付(17日まで)	11 142	11 金		建国記念の日	152	11 金			進路判定会議(13時30分)／進路式(教員)／運営会議		171		
12	日			124	12 水		12 143	12 土			153	12 土					172		
13	月			9 132	13 木	休講／24年キャリア教育/3年学習指導要領試験/3年講習	10 144	13 日			154	13 日					173		
14	火			9 133	14 金	運営会議	12 145	14 月			15 165	14 月					174		
15	水			10 134	15 土		144	15 火	後学期末試験／成績入力開始(13時)	特別研究発表会(2年)／補講、特別研究	6 166	15 火			卒業式		175		
16	木	休講／成績入力締切(12時)／学生会主催行事・学生会祭／開防訓練		9 135	16 日		145	16 水	後学期末試験／大課時数入力締切(18時)	補講、特別研究	7 167	16 水					176		
17	金	校務連		10 136	17 月		11 146	17 木	後学期末試験	補講、特別研究／答案返却・解説	8 168	17 木					177		
18	土			125	18 火	志学寮ハート(専長選挙)	12 147	18 金	後学期末試験／答案返却・解説	補講、特別研究／答案返却・解説	9 169	18 金			校務連		178		
19	日			126	19 水	休講／送別クラスマッチ	11 148	19 土			155	19 土					179		
20	月			10 137	20 木		12 149	20 日			156	20 日			春分の日		180		
21	火			10 138	21 金	校務連	13 150	21 月		休講／祭点	157	21 月			振替休日		181		
22	水	短縮授業／満席／LHR		11 139	22 土		146	22 火	後学期末試験／入学判定会議	補講、特別研究	10 170	22 火			学年末休業開始		182		
23	木	天皇誕生日閉寮(11時)		127	23 日	推薦入試	147	23 水	後学期末試験／答案返却・解説/次年度前学期選択科目受講品届出	補講、特別研究	11 171	23 水					183		
24	金	成績会議／冬季休業開始		128	24 月		12 151	24 木	追試験願書締切／答案返却・解説／学力合格者内定通知	補講、特別研究	12 172	24 木					184		
25	土			129	25 火	推薦入学判定会議	13 152	25 金	答案返却・解説／卒業式／清冊／LHR／景清冊	修了判定会議(5時30分)／補講、特別研究	13 173	25 金					185		
26	日			130	26 水		13 153	26 土		閉寮(11時)	158	26 土					186		
27	月			131	27 木	推薦入学合格発表	13 154	27 日			159	27 日					187		
28	火	仕事納め		132	28 金		14 155	28 月			160	28 月					188		
29	水			133	29 土	学生会リーダー研修／金国常務幹部プレゼンテーションコンテスト	148										189		
30	木			134	30 日	金国常務幹部プレゼンテーションコンテスト	149										190		
31	金			135	31 月		13 156										191		
学生会長立会演説会・選挙					TOEIC Bridge (1～3年生)					内定者登校日(合格発表)									
TOEIC IP (4年生)										平成23年度 特別研究アーマー提出締切					学生交流 (チャセックポリテクニク)				
										回数欄 出席すべき日数 (授業日 150日, ■試験日 11日, ■学校行事 13日) ■休み 191日									

編 集 後 記

「高専だより」第62号をお届けいたします。

今号では国際交流についての特集記事を掲載しています。
また、前号に引き続き、以前本校に在職されていた政所先生から寄稿していただいた記事の後編も掲載しています。

また、この号が皆様のお手元に届くころには、本校ホームページのリニューアルが行われていることと思います。
トップページのデザインを一新し、ホームページを訪れてくださる皆様により見やすく、よりの確に情報をお届けできるように改良を行いました。ホームページのアドレスは変更以前のものと変わりありません (<http://www.kagoshima-ct.ac.jp/>)。宜しければ一度アクセスしてみてください。

最後になりましたが、発行に当たりまして、多忙な期間の中で快く原稿執筆をお引き受けいただいた執筆者各位に対して委員一同厚く御礼申し上げます。

電気電子工学科 前蘭 正宜

「高専だより」専門委員会委員

委員長	前蘭 正宜	(電気電子工学科)
委 員	塚崎 香織	(一般教育科文系)
	大竹 孝明	(一般教育科理系)
	小田原 悟	(機械工学科)
	福添 孝明	(電子制御工学科)
	武田 和大	(情報工学科)
	疋田 誠	(土木工学科)

担当事務 有蘭 俊子 (入試広報係長)

「鹿児島高専だより」第62号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会
発 行 鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1